

市民等との協働事業一覧

(平成28年度事業)

平成28年度市民等との協働事業一覧表

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
1	企画部	秘書広報課	広聴・国際交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	1	
2		企画政策課	企画政策担当	男女平等情報紙発行业務	3	
3	生活安全部	防災課	防災係	青梅市防災講演会	5	
4		市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	7	
5				不動産鑑定士による無料相談会	9	
6				不動産無料相談会	11	
7				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	13	
8				相続税等無料相談会	15	○
9				青梅市市民のくらし展	17	
10		住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	19	○
11				青梅市定例住宅相談会	21	○
12				分譲マンション管理セミナー&相談会	23	○
13	市民部	市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	25	
14				お〜ちゃんフェスタ2016	27	
15				市民活動団体支援講座「組織運営の肝をつかむ〜団体の想いをカタチにするには〜」	29	
16				「おそきだより」の発行	31	
17				ボランティア・市民活動紹介展	33	○
18				出前講座「ボランティアってなあに」	35	○
19			青梅市民センター	青梅市民センター運営協議会	37	
20				青梅市民センター文化祭	39	
21			長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	41	
22				長淵地区文化祭	43	
23			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	45	
24				文化展	47	
25				ふるさと地域散歩	49	
26			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	51	
27				梅郷市民センター文化祭	53	
28			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	55	
29				三田地区総合文化祭	57	
30			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	59	
31				小曾木地区文化祭	61	
32			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	63	
33				成木地区文化祭	65	
34				東京ヒルクライム(自転車競技)	67	
35			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	69	
36				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	71	
37				第八支会ささえあいフェスティバル	73	○
38				はじめてのフラダンス教室	75	○
39			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	77	
40				新町末広地区市民文化祭	79	

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規	
41	市民部	市民活動推進課	河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	81		
42				河辺市民センター文化祭	83		
43			今井市民センター	今井市民センター	今井市民センター運営協議会	85	
44					今井市民センター文化展	87	
45					市民ウォーキング	89	
46			スポーツ推進課	スポーツ推進係	第51回青梅マラソン大会	91	
47	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ2016	93		
48				おうめ環境ニュースの発行	95		
49				クーズビズ運動	97		
50				みんなで打ち水！	99		
51				ウォームビズ運動	101		
52				エコドライブ運動	103		
53				みどりのカーテン事業	105		
54				ガサガサ水辺の探検隊	107		
55				多摩川まるごと遊び塾	109		
56				がんばれ！あゆっ子2016「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	111		
57				奥多摩川の魚を釣ってみよう子供の昔ながらの釣り体験教室と多摩川魚類生息調査	113		
58				親子魚釣り教室2016(つりはたのしいね！思い出の釣り)	115		
59				じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー！（霞川子どもの水辺登録10年記念）	117		
60				かすみ川であそぼ！いかだあそび in 霞川Part8	119		
61				霞川で遊ぼう 僕も私も釣り名人・お魚釣りに挑戦しよう	121		
62				飼い主のいない猫のための「里親会」・飼い主のいない猫のための里親会と相談会	123		
63				動物愛護啓発映画上映会	125		
64				さくらねこ無料不妊手術事業	127		
65				おうめこどもエコクラブ	129		
66				清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	131
67	生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	133					
68	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	135					
69	健康福祉部	高齢介護課	高齢者支援係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	137		
70			包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	139		
71				認知症サポーター養成研修事業	141		
72				介護サービス相談員派遣事業	143		
73				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	145		
74	障がい者福祉課	庶務係	青梅市障がい者交流バスハイク	147			
75		相談支援係	お助けマン養成講座フォローアップ研修	149			
76		認定サービス係	平成28年度 入門・初級手話講習会	151			
77	健康課	健康推進係	第47回おうめ健康まつり	153			
78	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズパーク」管理・運営事業	155		
79				子育てひろば一般型事業(にこにこ広場)	157		
80				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	159		
81				子育てネット事業	161		
82				子どもふれあいフェスタ2016	163		

NO.	部	課	係	事業名	ページ	新規
83	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	青梅市民センター子育て支援事業	165	
84			青少年担当	青梅市親子ふれあい綱引き大会	167	
85	まちづくり経済部	都市計画課	景観係	青梅駅周辺景観まちづくり	169	
86		公園緑地課	公園管理係	大塚山いこいの森ボランティア	171	
87		公園緑地課	公園管理係	緑地管理ボランティア	173	
88				青梅の森保全プロジェクト(青梅の森保全事業)	175	
89		商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	177	
90		農林課	林務係	森林ボランティア育成講座	179	
91	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	181	
92		社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2016～	183	
93				家庭教育講演会	185	
94				あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	187	
95		中央図書館管理課	管理係	「この指とまれ！」朗読会	189	
96				中央図書館整架ボランティア	191	
97				おはなしボランティア	193	
98				春の午後には図書館へ～手話で楽しむおはなしと映画～	195	○
99	市民提案協働事業	企画政策課、農林課、都市計画課、商工観光課、住宅課、市民活動推進課		ようこそおそき事業	197	
100		スポーツ推進課・障がい者福祉課		障がい者スポーツ普及推進事業	204	
101		文化課・商工観光課		鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし	211	
102		農林課		森林所有者・地域住民・事業者・若者を結ぶ勉強会の実施事業	214	
103		高齢介護課		身体活動を習慣化させる介護予防体操教室	218	

協働事業評価シート

(98事業)

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手受入れ事業	担当課	秘書広報課広聴・国際交流担当
------	----------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年2月16日から20日 場所：第51回青梅マラソン大会会場
2 継続事業	
(2) 事業の目的	国際交流の促進のため、青梅マラソン大会に参加する外国招待選手等選手・役員の受入れを、青梅・ボッパルト友好協会、青梅市日本中国友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	青梅マラソン大会により多くの外国人に参加してもらい、国際交流を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	姉妹都市ボッパルト市からの招待選手団（5名）および北京市からの招待選手団（5名）に対し、市長への表敬訪問および開会式・大会当日のほか、青梅市滞在中における支援を行った。
(5) 事業経費（決算額）	姉妹都市ボッパルト市からの招待選手団成田空港迎え 74,790円（バス借上+有料道路+駐車場代）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅・ボッパルト友好協会 参加人数：5名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各友好協会が市民レベルでの交流を行っており結びつきも強いため、外国人招待選手について青梅市との共催事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：来青までの事前調整、宿泊先の確保等については、友好協会で行なっている。 行政側：大会へのエントリー、空港へ迎え、大会前日、当日の誘導や通訳者の確保を市で行っている。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
青梅マラソンを通じた市との協働により、友好都市の方々との交流を更に深めることができた。			
行政側			
普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、事前調整や宿泊、市民交流をスムーズに行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
市との連携を強化し、今後も継続可能な受入体制を構築したい。			
行政側			
青梅マラソン（スポーツ）交流を継続していくため、受入体制等、身の丈にあった対応を検討して行く。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	企画政策課企画政策担当
------	-------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：毎年 場所：青梅市役所会議室他
2 継続事業
(2) 事業の目的 男女平等情報紙を通じて市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深める。
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(4) 実施内容（実績値等） 情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行を行う。
(5) 事業経費（決算額） 998,166円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：mamanicotto、NPO法人青梅子ども未来、青梅商工会議所、市民一般公募（2人） 参加人数：各団体1人ずつ計5人
(3) 協働の提案者 1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担 市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 テーマ決めや取材方法、また取材先や分担まで市民委員と行政が最初から一緒に相談し、作り上げることができた。どのように進めたらいいのかというところでは、行政側の専門的な知識や情報を活用し、また、市民にとって興味深く読みやすい内容にするための話し合いでは、市民委員の意見が多く取り入れられた。発行後の評判も良く、地域の方々に親しまれている情報紙になっていると思う。</p>			
<p>行政側 市民と協働で発行することにより、堅苦しい情報紙ではなく、市民が読みやすい情報紙が発行できた。内容について市民が知りたい情報や疑問に感じていることなどを話し合うことができ、意見交換の場としてもよい機会である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 年2回の発行なので、編集期間としては十分な時間があつたが、それぞれに都合が合わず、委員会開催日に全員が揃うことは難しかった。各自が資料を送り、行政側にまとめ作業を任せるということも多かつたので、担当者には随分と負担をかけてしまった。男女平等情報紙という役目は守りながらも、さらに一般市民（読者）の声や意見も取り入れた編集ができると、一層充実したものになると思う。</p>			
<p>行政側 男女平等参画社会の実現をめざし、行政が発行する情報紙としての認識を維持しながら市民が親しみやすい内容の情報紙を発行しなければならない。また、編集作業において役割分担を整理することで、より効率的な運営体制となる。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市防災講演会	担当課	防災課 防災係
------	----------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年1月15日（日）午前10時から正午 場所： 霞共益会館3階大ホール
2 継続事業	
(2) 事業の目的	1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」に合わせて、防災に関する講演会を実施し、市民の防災知識の向上を図ること。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	より多くの住民参加と防災意識等の啓蒙・啓発
(4) 実施内容（実績値等）	講演内容 ○自助・近所・共助でつくる災害に強いまち（講師 山村 武彦 防災システム研究所） ○青梅市自治会連合会長講話（高橋 正 会長）
(5) 事業経費（決算額）	・市報償費 70,000円 ・青梅市自治会連合会 70,000円 計140,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会 参加人数： 473名（市民含む）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	防災意識の向上と自治会活動の活性化および加入促進を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 自治会員に対する周知活動 行政側： 市民、関係機関等への周知

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
行政と連携をとることにより、事務の負担軽減が図られ、広く市民への防災啓発をすることができた。			
行政側			
市と自治会連合会が連携を図ることができ、市民の防災意識の向上を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
防災意識の向上と実践的な活動の普及			
行政側			
より多くの市民の参加を図るための周知と自治会未加入者の防災知識の向上			

協働事業評価シート（表）

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	--------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年10月21日（金） 午前10時から午後4時 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 東京都行政書士会多摩西支部 参加人数： 3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側	行政書士制度の普及・浸透を図り、相談支援ができた。		
行政側	相続、遺言に関する相談や成年後見制度の普及を図れた。 相談者数 15 人		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及・浸透を図っていきたい。		
行政側	行政書士制度の普及を図り、継続的に行政書士を活用した市民へ支援を行いたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	不動産鑑定士による無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年10月24日（月） 午前10時から午後4時 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容（実績値等）	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数： 7人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図ることができた。			
行政側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。 相談者数10人			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進向上に寄与したい。			
行政側 安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年9月5日（月） 午前10時から午後4時 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	不動産取引に伴う一般消費者の利益保護のため、不動産に関する知識の普及と安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容（実績値等）	弁護士、税理士および全日本不動産協会東京都本部多摩西支部の相談員による不動産全般の相談
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数： 9人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	(公益社団法人) 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側		消費者に対して不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止の徹底に努めることができた。	
行政側		市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。 相談者数 54 人	
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側		無料相談会の開催により、不動産に関する知識の普及並びに不動産取引事故防止に努めていきたい。	
行政側		安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。	

協働事業評価シート（表）

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部（法テラス）の無料法律相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-------------------------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年10月13日（木）・12月8日（木） 午後5時から午後8時10分 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による「無料法律相談会」を実施する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	無料法律相談会の開催。開催日ごと、5名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容（実績値等）	弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部（法テラス多摩）、東京三弁護士会多摩支部 参加人数： 各回1人 計2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日本司法支援センター（法テラス）からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方の法律に関する相談に応えることできた。		
行政側	市民への法律相談への機会をふやすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。 相談者数 10 人		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	無料法律相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。		
行政側	市民への法律相談の機会をふやすために開催したい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	相続税等無料相談会	担当課	市民安全課市民相談係
------	-----------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年3月23日（木） 午後1時から午後4時 場所： 市役所3階相談室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	相続税等様々な税に関する無料相談会を実施する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	相続税等の相談会の開催。12名まで先着順で受付を行う。
(4) 実施内容（実績値等）	税理士による相続税等無料相談会
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 東京税理士会 青梅支部 参加人数： 2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京税理士会 青梅支部からの要望による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	税に関する諸問題に関する相談に応えることできた。		
行政側	税相談を行うことにより、市民が抱えている税に関する諸問題の解決が図れた。 相談者数 9 人		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	税相談の開催をし、より多くの方の相談に応じていきたい。		
行政側	市民への税相談の機会をふやすために開催したい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市市民の暮らし展	担当課	市民安全課 市民相談係
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年11月5日（土）・6日（日） 午前10時から午後4時 場所：永山公園グラウンド（産業観光まつりに併設）
2 継続事業	
(2) 事業の目的	『「支えあおう日々の暮らし！みんなの笑顔のために！」～みつけてかえろう 楽しむヒント～』をテーマに、消費生活に関する知識や情報を発信し、1人1人が自立した消費者になるための啓発を行う。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	産業観光まつりの来場者に対し、生活の中で知ってもらいたい情報（消費者関係、行政関係）を展示、催し物等により発信する。
(4) 実施内容（実績値等）	展示コーナー：パルシステム東京・コープみらい・みらいひろば青梅新町・実行委員会・ボランティア協力団体、 人権・行政相談、交通安全・防犯、男女平等参画社会、自治会連合会、フードドライブ他） クイズ（2日間890人）、おもちゃの病院、消費者相談、消費者クイズ、煙体験ハウス、食品衛生啓発、ラスク・サブレ配布
(5) 事業経費（決算額）	委託料 921,945円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「生活協同組合 パルシステム東京」11人・「生活協同組合 コープみらい・みらいひろば青梅新町」10人・「都立青梅総合高校」13人・「都立多摩高等学校」14人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度まで消費生活展として実施していたが、婦人会団体がなくなったため、平成17年度からは「市民の暮らし展」として、実行委員会を組織して開催している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 啓発パネル等の作成、展示、説明 行政側： 会議の設定、暮らし展会場の総括、準備、整理

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 各コーナーごとにテーマに沿った展示等を行ったが、両日とも天候に恵まれ多くの来場者に消費者としての情報発信や啓発ができて良かった。高校生ボランティアも各展示コーナーの紹介や啓発活動を行うことで、消費者としての情報を学ぶ機会となった。</p>			
<p>行政側 「市民の暮らし展」は、産業観光まつりに併設して行っているため、多くの来場者があり、消費生活をはじめ人権、行政相談、自治会等について効果的な啓発活動ができた。また、集客のために行ったクイズ等は、市内産野菜を利用するなど地産地消の推進を図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 より多くの人に情報を届けるために、テント内の展示物や案内方法の工夫が必要。実行委員会として協力する団体が減少し、協力団体の構成員も減少するなかでの暮らし展の実施は負担が大きくなるため、新しい協力団体の募集等が必要と思う。</p>			
<p>行政側 今年度は、実行委員会の構成団体が1団体減って2団体となり、構成団体への負担増が懸念されたが、協力して実施することができた。今後は、構成団体の本事業への負担を少なくするためにも協力団体を増やしていく必要があるが、参加を希望する団体がいないのが現状である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	--------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年10月22日（土） 午後1時30分～4時30分 場所： 市役所2階 204・205会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕・維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容（実績値等）	相談件数 26件
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会 （民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体） 参加人数： 16人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。			
行政側			
住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
空家の相続問題等、専門的な相談に対し、対応できない場合がある。			
行政側			
さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 また、相続問題等に対応するため、司法書士会や行政書士会等との連携を検討する。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市定例住宅相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年4月21日～平成29年3月16日の第3木曜日（10月を除く） 場所： 市役所1階ロビー
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容（実績値等）	開催回数 11回 相談件数 25件
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会 （民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体） 参加人数： 延22人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランに住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。			
行政側			
住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
空家の相続問題等、専門的な相談に対し、対応できない場合がある。			
行政側			
さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 また、相続問題等に対応するため、司法書士会や行政書士会等との連携を検討する。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	分譲マンション管理セミナー&相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	-------------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年1月28日 場所： 市役所2階 202・203会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	市内の分譲マンション管理組合が抱えている諸問題を解決するとともに、東京都が策定した「良質なマンションストックの形成促進計画」にもとづく分譲マンションの実態把握等、今後、東京都との連携が予定される中、市としても積極的に問題点を把握していく。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	無料のセミナーおよび相談会を開催し、市民の分譲マンションの管理等に関する問題や悩みを解決する。
(4) 実施内容（実績値等）	【セミナー】 第1部 良質なマンションストックの形成促進計画、分譲マンション管理規約の改正等について 第2部 社会問題になっている『民泊』について(27組32人) 【相談会】 分譲マンションの修繕、維持・管理に関する相談(5組 5人)
(5) 事業経費（決算額）	分譲マンション管理組合への開催通知送付にともなう郵送料 14,544円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市住宅施策推進協議会に所属する（一社）東京都マンション管理士会たまむさしの支部 参加人数： 7人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにマンション管理組合への支援が掲げられており、協力をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 分譲マンション管理組合に関する行政への情報提供、チラシの原稿作成、当日の司会進行、相談会の相談員 行政側： 分譲マンション管理組合への開催通知の送付、広報活動、会場の確保・設営、セミナーの講師依頼、申込み受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政が関わることにより、参加者に安心感を与えることができ、大勢の参加者を集めることができた。			
行政側			
セミナーにおいてマンション管理組合に対して情報提供を図るとともに、相談会により管理組合の悩みを解消することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
多くの相談員の確保を図る。			
行政側			
会場が参加者数に対し手狭であったため、広い会場の確保を図る。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	協働事業市民推進委員会	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年5月10日、7月22日、11月25日、3月24日 場所：市役所階会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	
(4) 実施内容（実績値等）	協働事業実施結果について意見をもらう。 今後の協働のあり方等について意見をもらう。
(5) 事業経費（決算額）	謝礼金 90,000円（1人10,000円×9人）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人、自治会連合会、公募、ボランティア・市民活動センター 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	協働相手：提案や意見の発表 行政側：会議の事務局

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 これからの地域社会の状況を見たときに、協働による市民参画が重要になってくると考えます。その一つとして、市民推進委員会が市民目線で協働の在りかたや評価について論議して課題などを庁内委員会へ報告することは大切な役割である。各課の推進委員対象とする講座や市外への研修に関しては、学びとしての成果がある。</p>			
<p>行政側 多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会が出された市の協働に対する意見を、庁内協働推進会議に報告した。また、庁内協働推進員対象の研修と、市民活動団体対象の講座を開催し、この委員会委員に参加をいただき、情報共有を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 市民推進委員会で論議した内容を庁内委員会へ報告したのちの、改善策や今後に向けての方向性などが具体的に進められていない。市民委員会の論議を課題別に整理し深めることが必要。そして、出来ることから対策を実施していければと思う。また、行政・市民とも協働に関する学びと交流を引き続き行い、市民団体の高齢化対策についてもおこなってきたい。</p>			
<p>行政側 委員会が出された市民委員の意見を庁内会議に報告したが、施策へ反映させていくことが課題である。具体的な課題を絞り検討していくことで、協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考える。事務局として会議の運営について調整し、実践できる方策を整理していきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2016	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年9月18日（日） 場所：市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。 地域や世代を超えた交流や発表の場を創り、より一層のコミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民がさまざまな形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。
(4) 実施内容（実績値等）	・ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業等の活動紹介と展示、模擬店出展、バザー
(5) 事業経費（決算額）	1,459,367円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市社会福祉協議会 参加人数： 3,500 名（出店者・関係者含）
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（ ）
(6) 役割分担	市民側：事業実施、広報活動（広報おうめ以外） 行政側：事業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民などがフェスタを通し交流することで、相互の理解を深めることが出来た。			
行政側 役割として、広報掲載・周知を行った。当日は多くの方に来場者してもらい、ボランティア団体の活動状況などについて周知することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
青梅ボランティア・市民活動センター 前身のおうめ市民ふくし祭から名称等変更してお〜ちゃんフェスタとなり5年目となった。フェスタとしては定着してきたが、フェスタとしての統一感がないとの声もある。今後、テーマ等を決めていくことも検討している。 また、仮設駐車場を参加団体・来場者の駐車場として使用しているが、今回は雨天だったこともあり、車で来る方も多く、満車だったにもかかわらず満車表示がされず入場できたため、止められない車が通路等に多数停車し危険だった。満車表示設定の確認と、駐車場への人員配置も検討する。			
行政側 協働事業として今後確立させるため、事前協議と当日の役割分担を明確にしていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	市民活動団体支援講座「組織運営の肝をつかむ～団体の想いをカタチにするには～」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	--	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年1月16日(月) 場所：市役所会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化をすることで、新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	団体の意志決定である会議の基本や会議に必要な場づくりについて学び、団体の活動の活性化を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	「組織運営の肝をつかむ～団体の想いをカタチにするには～」と題した講義 参加者 28人
(5) 事業経費（決算額）	報償費 30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数：3人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	ボラセン：企画、受付、運営 行政側：企画、受付、広報、運営

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター センターでポスターチラシにて周知、申し込み受付を行った。			
行政側 ボランティア・市民活動センターでの周知をしてもらうことで、多くの団体に周知することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体が組織を運営していく上で必要としている内容を把握し、行政と十分な協議をして臨んでいきたい。			
行政側 NPO法人、市民活動団体向を対象に「開催してほしい講座についての」アンケート調査を行い、回答が多かった内容の講座を開催したことで、団体への支援につなげることができた。今後も講座内容について青梅ボランティア・市民活動センターと考えていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	「おそきだより」の発行	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年6月、9月、12月、平成29年3月 （年4回発行） 場所： 小曾木地区、小曾木市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	おそきだよりを発行し、小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図るため、おそきだよりの発行をする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	若年層から高齢者まで地域情報を得やすい状況を作る
(4) 実施内容（実績値等）	情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の理解。
(5) 事業経費（決算額）	198,288円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： おそきの学校と地域を考える会 参加人数： 34名（おそきだより発行部数1回1,700部、小曾木地区全戸配布、市内要所配置）
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民提案協働事業申請により採択された事業
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 企画、情報収集、編集、発行、配布 行政側： 経費の負担、編集、配布

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域運営は、本来、地域住民が主体性を持って行うことが理想であり、その方向性や取り組みに必要な行政から見た示唆や予算措置を行うことが行政側のあるべき姿である。この事業は、その理想を形にしたものであり、市民にとっても行政にとってもあるべき姿だと思われる。</p>			
<p>行政側 協働で発行することで、行政だけでは行えない市民の身近な情報や地域の課題が掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 おそきだよりは地域課題を地域住民が把握するための大切なツールともなっている。各地域が主体性を持って同様な事業を楽しんで意欲的に取り組めるような意識を市内に展開したい。</p>			
<p>行政側 地域に関する新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	ボランティア・市民活動紹介展	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	----------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：①平成28年7月25日～29日 ②平成28年9月18日 ③平成29年1月10日～15日 場所：①市役所1階ロビー ②市役所だんだん前（お～ちゃんフェスタ2016内） ③中央図書館多目的室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅ボランティア・市民活動団体の活動状況を広く市民に紹介するため
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	パネル展を通し、ボランティア・市民活動団体の活動状況を紹介するとともに、活動参加へつなげていく。
(4) 実施内容（実績値等）	青梅ボランティア・市民活動団体活動の活動の様子のパネル展示
(5) 事業経費（決算額）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅ボランティア・市民活動センター市社会福祉協議会 参加人数： 3
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ボランティア・市民活動団体の活動状況を広く市民に紹介するため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（ ）
(6) 役割分担	市民側：会場確保、開催の広報 行政側：事業の実施

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

団体側

多くの方にパネルを見てもらい、市内に様々なジャンルのボランティア・市民活動団体があるということを周知できた。

行政側

市役所ロビー、多目的室とも人が多く集まりやすいところであったため、多くの人に見てもらうことができた。

(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）

団体側

7年振りのパネル展示開催だったので3回会場を変えて実施した。今後も数年間隔で開催していくことが効果的だと思われる。

行政側

より多くの人に見てもらえるよう、展示する内容について今後も検討をしていきたい。

協働事業評価シート（表）

事業名称	出前講座「ボランティアってなあに」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	-------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間：平成28年12月13日</p> <p>場所：都立青梅総合高校</p>
1単年度事業
<p>(2) 事業の目的</p> <p>若年層から高齢者まで、興味をもってもらう。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等）</p> <p>ボランティア活動に興味、活動参加のきっかけづくりとなるようにする。</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等）</p> <p>青梅ボランティア・市民活動センターが講師となり、ボランティアについての講義を行う。</p>
<p>(5) 事業経費（決算額）</p> <p>なし</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>2. 事業共催</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名：青梅ボランティア・市民活動センター</p> <p>参加人数： 3</p>
<p>(3) 協働の提案者</p> <p>1 行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ</p> <p>「青梅市生涯学習まちづくり出前講座」事業のメニューに設定した。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>2. 実施段階</p> <p>その他の場合具体的に（ ）</p>
<p>(6) 役割分担</p> <p>市民側：広報、団体との調整</p> <p>行政側：講師</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

団体側

今回の対象者が進路の決まった高校3年生とのことだったので、すぐの活動にはつながらなくても、今後何かあった時にこの講義のことを思い出して活動のきっかけとなればいい。

行政側

身近で活動している団体の活動など紹介もしていたので、興味があった方が活動参加へつながるといい。

(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）

団体側

今回の講義はセンターのみで行ったが、今後は講義の部分も行政と一緒にできたらと思う。

行政側

今回、メニューを設定して初めての講座であった。今後も、依頼があった場合に、対象者、希望の内容で開催していけるよう青梅・ボランティアセンターと調整しながら実施していき

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成28年8月5日 第2回 平成29年1月20日 場所： 青梅市民センター多目的室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地域の団体や市民が主体となって年2回の協議を行い、センターの運営に反映する
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの利用状況・生涯学習事業実施状況・市民センターの運営等について協議する
(5) 事業経費（決算額）	青梅市民センター運営協議会謝礼金 95,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第1支会・市立第一小学校PTA・センター利用団体・公募委員等 参加人数： 10名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱による
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの運営に関して協議する 行政側： 協議会の提案等により効果的な活用を図る

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
センターの利用状況や取り組みについて知ることができ、地域住民との相互理解に役立っている			
行政側			
市民センターの運営等について率直な意見を得られる良い機会となっている			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
新生涯学習施設への移行に伴う地域住民への影響について			
行政側			
運営協議会の意見を尊重し、新生涯学習施設への移行準備を進めていく			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年11月26日・27日 場所： 青梅市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターを利用する自主グループおよび地域の方で趣味等の作品展示、演技披露等により広く地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げる
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	青梅市民センター利用自主グループの発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図る機会とする
(4) 実施内容（実績値等）	青梅市民センター利用自主グループの作品展示、演技披露等(延べ来場者550人)
(5) 事業経費（決算額）	18,603円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数： 17団体
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの発表・交流の場を設け、親睦の輪を広げるため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 年5回の実行委員会に参加し、文化祭の内容について協議を行う 文化祭の準備・撤収を主体的に行う 行政側： 実行委員会の事務局業務を行う

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターから学校・保育園等に広報を行い、子どもをターゲットとした企画を行うなど、発展がみられた			
行政側			
市民センターと利用団体との良い交流の機会となった			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
利用団体以外(地域住民等)の出展を増やしていく			
行政側			
文化祭で生まれた利用団体同士のネットワークが継続するような仕組みづくり			

協働事業評価シート（表）

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回 平成28年7月22日、 第2回 平成29年3月7日 場所：長淵市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する（年2回）
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費（決算額）	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：センター運営全般について協議する 行政側：センター運営全般について協議する

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。			
行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にしたい。			
行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	長淵地区文化祭	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年11月12日、11月13日 場所：長淵市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅市長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容（実績値等）	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定
(5) 事業経費（決算額）	支出額：30,780円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：長淵地区文化祭実行委員会 参加人数：31団体および個人出展5人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側：実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。			
行政側 市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側 参加団体、入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回（平成28年7月28日）、第2回（平成29年2月23日） 場所：大門市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	大門市民センターの効果的活用および適正かつ円滑な運営について協議すること。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地域の団体や市民が主体となった協議機関として、市民センターに置く機能や運営について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの在り方について、市民センター利用状況、住民票等の交付状況、文化祭等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費（決算額）	報賞費 85千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：団体名：第3支会1名、保育園園長1名、子供会育成会1名、青梅市スポーツ推進委員会1名、霞老壮大学1名、防災対策委員会1名、小学校校長1名、利用団体1名、公募委員2名 参加人数： 合計10名（男7、女3）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する。 行政側： 提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 要望等を	市民センターの効果的な活用、サービス向上について意見交換ができ、地域住民の得やすくなったが、予算の制約から実現に結びつかない事項があった。		
行政側 が円滑に	センターが地域に密着し市民の声が行政に反映され、また行政から地域への情報等行え、地域の拠点としてのセンターに有効である。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	より活発な発言が出来る関係づくり		
行政側	センターをより効率よく運営出来るよう協議会の意見を尊重し実施していきたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年11月19日・20日 場所： 大門市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体および地域住民の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場として、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	利用団体の活動および地域の住民の発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	利用団体メンバーおよび地域の人々の作品の展示や発表を行い、大門地域のふるさとまつりと同時開催の 効果もあり2,669人の観覧を得た。
(5) 事業経費（決算額）	消耗品 3千円 パネル準備費 211千円（6センター協同）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：大門市民センター文化展実行委員会 参加人数：369（参加団体加入者および実行委員長）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の自主性と活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 団体代表者が実行委員として会の運営に係る。当日は、参加団体メンバーが行政側と共同で会場設営・撤去等を行う。 行政側： 実行委員会を開催して協議を進める。展示等に必要なものを準備する。展示パネルの設営・撤去。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果をみてもらうことができた。		
行政側	施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	より多くのセンター利用団体による参加、出品、発表。 展示スペースの拡充。		
行政側	展示会場、展示道具の老朽化。 舞台を必要とする団体は発表ができない。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	ふるさと地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年3月25日 場所：大門市民センター管内
2 継続事業	
(2) 事業の目的	近くに住む人同士親睦をはかりながら、身近な地域を知り、新たな発見、人とのつながりをつくることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	多くの市民に参加してもらうことにより、地域住民の親睦を深める。
(4) 実施内容（実績値等）	大門市民センター管内約4kmを散歩しながら、地域の歴史の話を聞く。
(5) 事業経費（決算額）	市予算（市民活動事業経費・報償費・講師報償金）から 7,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：霞川くらしの楽校 参加人数： 2
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域を活動拠点としていたので、センター事業を実施したい旨相談したところ、目的が合ったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側： 事前協議、広報等での周知、当日の資料準備等の事務

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	地域で活動している団体なので、地域住民との親睦をはかるとともに、団体の活動内容を知ってもらうことが出来た。		
行政側	身近な地域の歴史に触れるとともに、地域の人達の交流をはかることができた。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	今後もセンターとの協働で実施していきたい。		
行政側	今後も内容を変え、霞川くらしの楽校との協働で実施していきたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成28年9月6日（火）、第2回 平成29年3月15日（水） 場所： 梅郷市民センター会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費（決算額）	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円（第1回 5,000円×10人、第2回 5,000円×10人）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、五小PTA 1名、青梅女性防火防災の会 1名、利用団体 2名、公募 2名 参加人数： 10人（男性7名、女性3名）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。</p>			
<p>行政側 事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 若い世代の参加および来場者が少ない。</p>			
<p>行政側 市民センター利用団体も高齢者が多いので、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年11月13日（日） 場所： 梅郷市民センター体育館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容（実績値等）	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。 平成28年度実績：出品数635点 観覧者数574人
(5) 事業経費（決算額）	文化祭実施のための消耗品等経費 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数： 25人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅郷市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 文化祭実行委員会での打合せ、文化祭会場の設営および片付け 行政側： 文化祭実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市民センターの運営状況を知ることができ、また、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝える場となっている。			
行政側			
市民からの率直な意見が得られやすい機会になっており、市民センターの運営等について要望等を得るうえで有益な場となっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。			
行政側			
運営協議会の意見等を尊重し、市民センターの運営に対応していきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回 平成28年9月9日 第2回 平成29年3月16日 場所：沢井市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市の事務、地域団体の事業に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告および協議
(5) 事業経費（決算額）	市民センター運営経費 支出済額 90千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第5支会支会長（1）、自治会長（1）、スポーツ推進委員（1）、消防団団長（1）、高齢者団体（1）、PTA会長（1）、沢井市民センター利用団体代表者（2）、公募委員（2）。委員定数10人。 参加人数： 9月9日の出席者は8人。3月16日の出席者は8人。
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側： 助言を活かし、市の事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかった 2 あまりできなかった 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからも一層活用する。			
行政側 現状および情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとして、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年11月13日（日） 場所：沢井市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会を提供する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	来場者数700人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容（実績値等）	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費（決算額）	市民センター運営経費 支出済額 20千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	「第5支会」約10人。「清涼会」（老人会）約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体約200人参加。
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用自主グループの作品・実技、また農産物をより大勢の人に鑑賞・観賞していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ 行政側： 主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片づけ

協働事業評価シート（裏）

1 できなかった 2 あまりできなかった 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
施設利用団体や地域住民の成果発表の場として、また、団体相互の親睦、地域住民の交流の機会として効果がある			
行政側			
施設利用者の活動成果の発表の場作りにおいて市民側との意見交換ができ、団体・地域住民の交流、親睦に効果がある			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
施設利用団体、地域住民の活動成果発表の場としてのより良い会場づくり			
行政側			
参加団体および入場者数増の方法の検討			

協働事業評価シート（表）

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回 平成28年8月5日、第2回 平成29年2月23日 場所：小曾木市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの運営を適正、円滑に進める。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容（実績値等）	平成28年度市民センター関係予算、市民センターの在り方、平成28年度市民センター生涯学習事業の実施状況、市民センター・図書館の利用状況、平成29年度市民センター予算・生涯学習事業の予定
(5) 事業経費（決算額）	市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：自治会第6支会、社会教育団体のうちスポーツ団体、文化団体、青少年委員、公募委員 構成員人数：10人 参加人数：第1回 9人、第2回8人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱)
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民のニーズに対応した市民センターの運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側： 地域発展に向けて市民センターの在り方について検討する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側	市民センターの運営状態が良く分かった。		
行政側 くなつ	市民センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やす た。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	市民センターの利用率を高めるための工夫が必要であると感じた。		
行政側	委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。市民側から施設・備品の 老朽化等を指摘され、改善の要望等をいただくことが多いが、市の財政状況等から対応が困難 な場合が多い。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年11月12日、13日 場所：小曾木市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果として作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小・中学校総合学習の成果発表、農産物の展示、販売を行った。
(5) 事業経費（決算額）	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金および寄付金等で運営している。 平成28年度支出額 24,932円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数：参加団体20団体、一般観覧者783人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作品の展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	市民センター利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。		
行政側	行政と市民とが一体となって事業を行うことにより、市民センターがより身近な存在となる。		
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側	市民センター利用団体および文化団体が高齢化等の理由から参加者が減少傾向にある。		
行政側	土地柄を生かした農業者振興会による農産物の展示販売が人気が高いので是非続けたい。六中吹奏楽部による演奏は、他の催しとの関係から会場が野外（市民センター駐車場）であるため、天候により会場が変わる問題がある。これからも、より多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。		

協働事業評価シート（表）

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年8月2日、平成29年3月8日 場所： 成木市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容（実績値等）	平成28年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成28年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況・図書館利用状況について・平成29年度市民センター予算の概要・平成29年度成木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費（決算額）	成木市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第7支会、第七支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、成木地区教育環境等研究会、施設利用団体のスポーツ団体・文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数： 10人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年11月12日、13日 場所： 成木市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容（実績値等）	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費（決算額）	44千円（43,191円）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 成木地区文化祭実行委員会 参加人数： 28団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側： 文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ (自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	-------------------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1)	実施期間および場所 期間： 平成28年5月29日 場所： 成木市民センター～常盤林道
2 継続事業	
(2)	事業の目的 恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3)	事業の成果目標（数値目標等） 目標参加人数500名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4)	実施内容（実績値等） ヒルクライム（自転車で山道や坂を上る）競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5)	事業経費（決算額） 市予算なし

2 協働の内容

(1)	協働の形態 2. 事業共催
(2)	協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数： 256名（レース参加者（棄権等除く））
(3)	協働の提案者 2団体等からの提案
(4)	協働の理由・きっかけ 地域の一体化を図るため
(5)	協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6)	役割分担 市民側： 開催準備、交通整理、受付、撤収 行政側： 準備品用意、交通整理

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相互理解、地域の親睦、つながりが深まる			
行政側 行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要			
行政側 駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保			

協働事業評価シート（表）

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回 平成28年8月4日（木） 第2回 平成29年2月2日（木） 場所：東青梅市民センター第1会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な運営や活用方法を検討する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容（実績値等）	東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、予算・事業等について
(5) 事業経費（決算額）	東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策第八支会地区委員会1名、東青梅老壮大学1名、センター利用団体からスポーツ団体1名、女性防火防災の会1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人青梅こども未来1名、公募委員2名 参加人数：10名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を検討する。 行政側： 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対し、要望等を提案が出しやすくなった。			
行政側			
市民の代表から率直な意見が直接聞けるため、市民センターの運営に直接反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
市民センターをより良くするための意見交換の場として、これからもより活用する。			
行政側			
現状は、行政側から情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとし、市民センターをさらに良くすることを課題としたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年10月8日（土） 、 9日（日） 場所：東青梅市民センター体育館および和室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用者などの文化活動の成果を発表する機会を設け、広く地域市民が見学、参加等を通して、地域の文化活動の発展や交流をより一層図っていくこと。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦を図る場とする。
(4) 実施内容（実績値等）	東青梅市民センター利用団体および個人等の作品等の展示、演奏、実演。 作品数533点および38曲 観覧者766人
(5) 事業経費（決算額）	支出額：7,699円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市自治会第八支会4名、利用団体代表者(文化系) 22名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各種団体の発表の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会を設置し、会場配置図等を作成。各団体で会場設営を行う。 行政側： 展示用具等の提供。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
自分たちの表現したい作品や演舞等をより効率的に発表する場所が作れた。			
行政側			
<p>第八支会ささえあいフェスティバルを同時に開催することにより、それぞれの参加団体の役割について理解が深まった。</p> <p>また、来場者の大幅な増員につながったとともに、利用者の表現したい場作りにお互い意見交換ができ、市民側により満足できる場を提供できる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
提供される場所のより良い環境づくり。			
行政側			
<p>展示会場、展示用具の老朽化、参加サークルの高齢化に伴う参加人数・出品数の減少をふせぐため、第八支会ささえあいフェスティバルを毎年同時開催していく。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	------------------	-----	----------------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間：平成28年10月9日 作品展は10月8日から</p> <p>場所：東青梅市民センター 師岡会館</p>
<p>1単年度事業</p>
<p>(2) 事業の目的</p> <p>第八支会と第八支会関連団体および管内小中学校、保育園、ボランティア団体等と連携をして、地域の自治会活動の活性化を図るとともに、東青梅市民センター文化祭と同時開催をすることにより文化事業の充実を図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等）</p> <p>1 新たな視点(小中学校、保育園との連携、地域活動団体の紹介)での自治会活動を見直し、これからの活動につなげる。</p> <p>2 来場者の増加を図り、文化祭を充実する。(センター事業のPR、文化団体の活性化)</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等）</p> <p>1 小中学校生徒、保育園児、自治会員有志による作品の展示</p> <p>2 安協、青少対の活動紹介</p> <p>3 農産物の販売</p> <p>4 障がい者支援団体・ボランティア団体・NPO法人の活動紹介および物品販売</p> <p>5 センター利用サークルの演技披露(フラダンス、キッズダンス)</p> <p>来場者(9日のみ) 約700人</p>
<p>(5) 事業経費（決算額）</p> <p>第八支会 総額1,270,735円（地域の底力再生事業助成金 1,000,000円、青梅福祉団体等助成 77,000円、第八支会負担 87,788円、その他105,947円）</p> <p>行政負担なし</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>2. 事業共催</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名： 青梅市自治会連合会第八支会</p> <p>参加人数： 第八支会(安協・青少対含む) 約110人</p> <p>参考：団体参加者(小中学校・保育園作品提出者数含む) 約300人</p>
<p>(3) 協働の提案者</p> <p>1 行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ</p> <p>第八支会が創立50周年を迎えたことにより、新たな視点での自治会活動を模索するとの考えと、来場者が減少し、マンネリ化していた東青梅市民センター文化祭の活性化を図るとの目的が一致したことによる</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>1. 計画段階</p> <p>その他の場合具体的に（</p>
<p>(6) 役割分担</p> <p>市民側： 自治会館・駐車場の確保、会場設営、小中学校・保育園・自治会員へ作品提供依頼、回覧による周知、フェスティバル運営、来場者整理、自治会加入促進活動、文化祭会場設営・撤去手伝い</p> <p>行政側： 会場の確保、市民活動・障がい者支援団体への参加の呼びかけおよび調整、地域の底力再生事業助成金および青梅福祉団体等助成金の申請・実績報告、ポスターの作成、予算管理・決算報告等</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかった 2 あまりできなかった 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 小中学校、保育園、ボランティア団体等、多くの団体との協働により、それぞれの団体の活動内容や役割を、関係者や来場者に周知ができ理解が深まった。 今後も事業を継続することで、自治会加入促進や関係団体の事業の発展につながると考えている。			
行政側 第八支会における新たな視点(連携・協調・支援)での自治会活動を多くの来場者に周知ができた。あわせて、参加した団体の活動紹介ができたことにより、市民が団体存在を知ったことにより、利用・参加を促す一助とすることができた。また、文化祭にも多くの来場者が訪れ、文化祭の充実が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 開催当日、拡声器等を等使用しにぎやかであったことから、事前に近隣住民への周知が不足していた。また、参加する自治会など初年度であったため、認識と準備が不足していたと感じた。 実績を踏まえ、近隣住民への広報と参加団体の準備を充実させる。			
行政側 小中学校には校長との話し合いの中で依頼ができていたが、他の団体には準備期間が短く、忙しい自治会長をはじめ、団体への依頼が遅れてしまった。第八支会としてはこの事業の評価が良く、今後も継続していくと決めているので、総会終了後、早い時期に参加団体の把握・依頼に努めていく必要がある。 また、経費の大半が助成金であることから不交付となった時の継続の可否が大きな課題となってくる。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	はじめてのフラダンス教室	担当課	市民活動推進課 東青梅市民センター
------	--------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1)	実施期間および場所	期間： 平成29年3月12日(日) 場所： 東青梅市民センター
1単年度事業		
(2)	事業の目的	外出する機会が少ない妊婦および乳幼児がいる母親の居場所ならびに同世代のつながりを図り、子育て世代を側面から支援することで、子育て支援事業のPRと次につなげる事業とする。
(3)	事業の成果目標（数値目標等）	親子 15組まで
(4)	実施内容（実績値等）	市内で活躍する「ままにこっと」と連携をし、簡単に体を動かし、乳児がいても踊れるフラダンスを実施する。あわせて、参加者どうしの交流の場とする。 （当日参加者） 11組 21人 （当日キャンセル） 2組 3人
(5)	事業経費（決算額）	協働事業として実施。多くのスタッフが参加したが、経費は講師報償金として 6,000円を支出した。

2 協働の内容

(1)	協働の形態	2. 事業共催
(2)	協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： ままにこっと 参加人数： ままにこっと 3人 講師 1人 講師補助(フラダンス教室メンバー) 4人
(3)	協働の提案者	2団体等からの提案
(4)	協働の理由・きっかけ	市にとってままにこっとの活動が見えなくなってきたこと、あわせて引きこもりがちな若い母親の支援が必要である。また、おひさま広場やわいわいサタデーなど行政が行っている子育て支援事業のPRも兼ねることができる。
(5)	協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6)	役割分担	市民側： 教室の運営およびスタッフの確保、団体ホームページなどを利用した広報など 行政側： 講師料の負担、場所の提供、広報、参加申し込みの受付など

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 広報やチラシ・ポスターで告知していただけのため、より多くの市民の方々に、講座やままにこつとについて知ってもらうことができた。 公共の場を提供してもらえたため、講師も参加者も安心して講座に参加することができた。</p>			
<p>行政側 ままにこつとを紹介することができ、子育て中の母親の新たな趣味・居場所の一步となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 ・ままにこつとの活動内容について、講座中にもう少し詳しく紹介すべきだった。 ・子ども連れの方の参加が多い事業であったため、来るまでの来場者が予想されたが、駐車場が確保できるかをあらかじめ考慮しておけばよかった。</p>			
<p>行政側 この事業は「ままにこつと」が適任であったが、地域にはまだ眠っている（目立たない）団体がある。今後の協働相手の掘り起こしが必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1)	実施期間および場所 期間： 第1回 平成28年8月18日 第2回 平成29年3月2日 場所： 新町市民センター第1・第2会議室
2 継続事業	
(2)	事業の目的 新町市民センターの効果的な活用を検討するために設置
(3)	事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの効果的な活用を図る。
(4)	実施内容（実績値等） 市民センターの運営に関して協議する。
(5)	事業経費（決算額） 新町市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円 (5,000円×10人×1回、5000円×9人×1回)

2 協働の内容

(1)	協働の形態 1. 政策立案・事業企画等に参加
(2)	協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： 新町市民センター運営協議会（第九支会2名、青少年対策新町地区委員会1名、スポーツ推進員1名、小学校PTA1名、中学校PTA1名、施設利用団体2名、公募委員2名） 参加人数： 10名
(3)	協働の提案者 1 行政からの提案
(4)	協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5)	協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6)	役割分担 市民側： 市民センターの運営に関して協議する。 行政側： 協議会の提案等により効果的な活用を図る。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対する、要望や意見を含む協議により、センターをより身近で利用しやすいものにできる。			
行政側 市民側の意見を直接聞くことにより、より良いセンター運営の実施に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 市民センターのより良い運営に向けての意見交換の場として活用する。			
行政側 運営状況等の情報提供を積極的に行い、住民の意見収集の場として活用し、市民センターの良好な運営を図る。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	新町末広地区市民文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年11月12日（土）・13日（日） 場所： 新町市民センター体育館および本館（会議室、和室等）
2 継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターを利用している文化団体の活動を広く地域住民に紹介するとともに、新町市民センターを地域の交流の場として活用することを目的とし、もって地域コミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地域住民が、文化活動の成果を発表し、発表の場としての新町市民センターも来館することによって、地域住民の交流による地域の活性化を図る。 目標 参加団体数:20団体、体育館入場者2日間合計750人(27年実績673人)
(4) 実施内容（実績値等）	作品展示、舞踊、演奏、模擬店および地元農産者の販売等 実績 参加団体数25団体、体育館入場者2日間合計776人
(5) 事業経費（決算額）	支出した額 94,207円 （消耗品28,781円、パネル運搬費43,200円、文化祭用白布等洗濯料22,226円）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 新町末広町地区市民文化祭実行委員会（新町市民センター運営協議会委員10名、文化祭参加団体の代表者21名、青梅市自治会連合会第九支会役員および前年度第九支会役員15名） 参加人数： 44名（重複委員2名）
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会を組織し、主体的に運営する。 行政側： 展示に必要な用具の提供と実行委員会として事務局の機能を果たす。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効である。			
行政側 市民の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施された。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 参加団体の固定化とともに高齢化等もあり、マンネリ化している部分がある。 地域活性化のためにも、参加者の規模の拡大や新規開拓が必要である。			
行政側 参加者、来場者がより楽しめる文化祭とするため、日頃の声掛け等による新たな参加団体の開拓なども行い、参加者にも呼びかけていただき参加者の増加を図る。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：第1回平成28年6月21日（火）、第2回平成28年2月22日（水） 場所：河辺市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、子育て広場の利用状況、河辺市民センター文化祭等に関する報告と意見交換
(5) 事業経費（決算額）	河辺市民センター運営協議会委員謝礼金 80,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第10支会役員2人、高齢者クラブ代表1人、小学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、霞台第1住宅代表1人、民生児童委員1人、スポーツ推進員1人、公募委員2人 参加人数：延16名（第1回9名、第2回7名）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	河辺市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 市民センターの効果的な活用方法の提案、協力 行政側： 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活かす

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターと地域団体、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場として有益であった。			
行政側 市民センターと地域団体、住民、市民センター利用者との交流・意見交換の場として有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 子育て広場について、前年度行われた担当課による説明に対する要望が反映されていなかった。 様々な事案についても、同様に、協議会は単なる意見表明の場となってしまうのではないか。			
行政側 協議会の意見については、極力実施に努めているが、予算の伴うものや他部署の所管に属する場合、対応が困難なことが多い。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年10月22日（土）、23日（日） 場所：河辺市民センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、一層の河辺地域のコミュニティー醸成を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	利用団体の活動支援、市民センター利用率等の拡大および地域コミュニティーの醸成
(4) 実施内容（実績値等）	市民センターの利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店 2日間の延参加者数 1,670人
(5) 事業経費（決算額）	18,296円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数：30団体
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を設けることから、地域住民の作品展示へと拡大していった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 参加団体呼びかけ。日程調整、会場確保。作品展示場所・舞台発表プログラム作成。許認可申請手続き。広報。 行政側： 会場準備、片付け。来場者の受け付け、駐車場管理。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターを活動拠点としてきた団体の発表の場ができ、活動に張り合いが出る。</p>			
<p>行政側 利用者とのコミュニケーションが図られた。 市民センターの存在を、参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 双方良好な関係を保つことができたが、参加者の高齢化が進んできているため、力仕事を伴う準備、片付けが難しくなっている。</p>			
<p>行政側 他の行事と重なり参加できなくなる団体が増えたが、他の市民センターの文化祭との関係から、例年通りの日程とせざるを得なかった。子どもの参加を促すため、子育て広場の参加を求めたらとの意見があったので、担当課と協議したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回(平成28年7月20日)、第2回(平成29年2月24日) 場所： 今井市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況、平成28年度の予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第11支会2人、青少年対策第11支会地区委員会1人、スポーツ推進委員1人、女性防火防災の会第11支部1人、保育園園長1人今井市民センター利用団体2人、公募委員2人 計10人 参加人数： 述べ17人(第1回10人、第2回7人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側			
利用者からの意見や要望に対する行政の適切かつ的確な対応。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年11月5日、6日 場所： 今井市民センター体育館、和室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い、511人の観覧を得た。
(5) 事業経費（決算額）	文化展実施のための消耗品費 12,277円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 今井市民センター文化展実行委員会 参加人数： 述べ114人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会長の協力を得ながら、各団体で会場を設営する。 行政側： 展示用具等を提供する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。また、チャリティー作品販売の売上金を社会福祉協議会に寄付できた。			
行政側 施設利用団体の活動内容の把握と交流を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 市民センター利用団体のより多くの参加、出展、発表			
行政側 出展、発表者へのより良い環境づくり。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年1月22日（日） 場所： 藤橋・今井地区市街地および霞川遊歩道
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民の体力増進・健康保持と合わせ霞丘陵の自然を観察しながら、地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	体力増進、健康保持を目的として藤橋、今井市街地、霞川遊歩道を中心に歩く。多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展につなげる。
(4) 実施内容（実績値等）	霞丘陵ハイキングコースを予定していたが、コース上の2か所で熊の目撃、足跡が確認されたことから参加者の安全を考慮し、本コースの実施を断念し、代替えコース藤橋、今井市街地および霞川遊歩道を歩くコースに変更した。 125人参加
(5) 事業経費（決算額）	支出なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市自治会連合会第11支会 参加人数： 青梅市自治会連合会第11支会 41人、スポーツ推進委員2人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民の体力増進・健康保持と合わせて「霞丘陵の自然」を知っていただき地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図る。第11支会を中心に参加者を集い、地域と住民相互の親睦を深める。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式、閉会式の進行、ウォーキング中の運営、おしるこ・コーンスープの調理配布等 行政側： コースの検討と資料等の作成。消耗品の購入、準備品の用意等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民の体力増進・健康保持と合わせ、より地元を身近に感じるとともに、参加者相互の親睦を図ることができた。			
行政側 行政と地域との親睦と協力を深めることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 より多くの参加者の確保と交通安全の徹底。			
行政側 次年度以降の実施に向けた新たなコースの検討。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	第51回青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課スポーツ推進係
------	--------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年2月19日（日） 場所： 10キロの部 東青梅四丁目～日向和田（折返し）～青梅市役所前 30キロの部 東青梅四丁目～川井（折返し）～青梅市総合体育館前
2 継続事業	
(2) 事業の目的	①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	参加者（定員19,000人）を募集し、安全なマラソン大会を運営する。
(4) 実施内容（実績値等）	ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部
(5) 事業経費（決算額）	ボランティア用の帽子 : 854,496円（内訳：@460円×1720個） ボランティア弁当 : 1,963,650円（@650円×3021個） ※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会（主催団体の一つなので事業共催）など 参加人数： 2,814人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案 2 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に（青梅市陸上競技協会は主催団体の一つなので「1. 計画段階」）
(6) 役割分担	市民側： 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側： 大会の企画、各種申請等の届出、競技運営など

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	2
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 第51回大会を通じて、マラソンに関心のなかつた市民もランナーの頑張る姿、またボランティアの広範な活動等を見て、マラソンって素晴らしい、自分も参加してみたいと市民意識を盛り上げている。</p>			
<p>行政側 多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ることで、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。大会ボランティアや観客の方が、沿道からあたたかい応援がもらえると参加者からの多くの声をいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 全国的に多くのマラソン大会が行なわれ、ランナーが大会を選ぶ時代になった。時代に乗り遅れない大会運営をしていく必要がある。現在マラソンコースがせまいという問題もあるが、ランナーが楽しく走れるよう考えていきたい。</p>			
<p>行政側 ①ボランティアの割り当て（役割分担、配置場所）の再検討 ②ボランティアへの救命講習会の実施等、医務救護体制の強化 ③テロ等、非常時を想定した連絡体制・警備体制の見直し</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	おうめ環境フェスタ2016	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年6月1日（水）～6月26日（日）（5月31日（火）は市庁舎ロビー準備） 場所：6/5BOX KI・O・KU 6/1～24市庁舎ロビー 6/1～6/30中央図書館 6/12市役所 6/19霞川周辺 6/25～26中央図書館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと
(4) 実施内容（実績値等）	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど
(5) 事業経費（決算額）	159,860円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2016実行委員会、ボランティア等 参加人数：300名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側：環境政策課との協働で6月の環境月間を1ヶ月間フェスタ期間とすることが今年で3年目になるが、非常に良く運営することが出来た。中央図書館環境図書コーナー、市役所ロビーなどは一ヶ月連続で展示できた。次年度もよりよい形で協働事業として発展することを願っています。</p>			
<p>行政側： 市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールするこの事業は啓発効果が高く、環境について考える場を提供できるといった点からも意義があると考えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：ごみ分別ゲームで毎年清掃リサイクル課の参画があるのは高く評価したい。環境部長、環境政策課長以下政策課担当職員は精一杯努力していただいたが、フェスタのイベントごとに、他の係職も分担されて、管理係のみに負担が偏らないように環境部長が配慮してしていただきたい。もっと市を挙げて充実した環境フェスタに取り組む体制をとっていただけるとありがたい。</p>			
<p>行政側：参加主体の増加に伴い、実行委員会にはさらなる調整力が求められていることや、1カ月間に及ぶ事業になるので更なる柔軟な対応や配慮が必要になってくると考えられる。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	<p>期間：平成29年3月15日発行</p> <p>場所：市内の新聞を取っている世帯および戸別配布を希望した世帯</p>
2 継続事業	
(2) 事業の目的	<p>市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。</p>
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	<p>平成28年度における市の取り組みおよび市内の環境活動の紹介を通じ、環境への意識啓発を図る。</p>
(4) 実施内容（実績値等）	<p>おうめ環境フェスタ特集号として、紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。</p>
(5) 事業経費（決算額）	<p>444,190円</p>

2 協働の内容

(1) 協働の形態	<p>2. 事業共催</p>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	<p>団体名：おうめ環境市民会議</p> <p>参加人数：10人</p>
(3) 協働の提案者	<p>2団体等からの提案</p>
(4) 協働の理由・きっかけ	<p>平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始</p>
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<p>1. 計画段階</p> <p>その他の場合具体的に（</p>
(6) 役割分担	<p>市民側：記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案</p> <p>行政側：記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 行政の広報という公の広報手段で、市民団体の活動や青梅を取り巻く環境を伝えることができた。行政と市民がともに地域の環境の課題に取り組む姿勢を一般市民にアピールし、参加を呼び掛けることができた。年1回の環境ニュースは、「広報おうめ」への折込み紙という形で9年目を迎えスタイルも安定してきた。市民の中にも、行政紙に珍しい文章や表現のリアルなニュースが多く、楽しみに読んでますと好評である。</p>			
<p>行政側： 市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側： 昨年度の評価では「広報と別紙で配布しているが記事に目を通す方がまだ少ないようで反応が聞かれない。」とあるが、現状の調査不足である。「広報おうめ」の折込紙は清掃リサイクル課の「ごみ減量リサイクル通信」紙は折込紙であるが、思いの他市民によく読まれている。環境ニュースの浸透度も、環境フェスタでアンケートをとってみるなどベース資料を作る手がかかりになると思う。今後環境ニュースに必要なことは、市内でこつこつ続けている市民や、事業者の環境活動などをピックアップして掲載することで、みんなの環境への関心も高まると思う。</p>			
<p>行政側： 市民感覚を取り入れるといったコンセプトに対して、一定の成果はあったと考えているが、より多くの方々に読んでいただけるような工夫が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	---------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年5月9日～平成28年10月14日 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容（実績値等）	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費（決算額）	1,274円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数：
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： クールビズの実践 行政側： 企画と啓発物品（卓上のぼり旗）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 クールビズは一般的にもかなり認知をされてきている。仕事上では軽装で働くことに抵抗があることもあろうが、市から周知することで意識が高まる。</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 クールビズはすでにかなり認知をされているので、周知はさほど必要がないのではないかと。取り組み団体を機会をとらえて公表するなど、実施団体を増やしていく工夫が必要。参加することが企業の宣伝につながったりすれば、参加を得られやすいのでは。</p>			
<p>行政側 クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業は継続していく。参加団体を増やす等、さらなる周知の方法については検討したい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年7月24日～平成28年7月30日（打ち水ウィーク） ※7月26日は全市一斉打ち水 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容（実績値等）	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費（決算額）	0円（クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市自治会連合会他、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業 参加人数：
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡充を目的に、平成21年に市内の各種団体、事業者が一同に会する環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「打ち水」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 打ち水の実践 行政側： 企画と周知活動（ポスター掲出、広報等のメディア展開）

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側 クールビズと合わせて、さらなる周知啓発を図るとよい。			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。 打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 クールビズに比べ、認知度が低い。効果を感じられる工夫が必要。			
行政側 広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、ある程度の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年11月14日～平成29年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	892円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: ウォームビズの実践 行政側: 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	2	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 ポスター掲示や数値目標、光熱費コストなどを、市から積極的に周知することがないと実施が難しい。</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市の広報やHP等で参加事業所等を紹介し、宣伝等にもなるようにするとよいのではないかな。</p>			
<p>行政側 継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年4月1日～平成29年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: エコドライブ運動の実践 行政側: 企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	2	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	2
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
<p>市民側 リードはやはり利害関係を超えた立場の行政側になると思います。また事業者は取り組み姿勢を示すことで宣伝になるので協力が得られやすいと思います</p>			
<p>行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市の広報などで目にした記憶はあるものの、温暖化対策という印象がない。省エネ効果等をわかりやすいかたちで、公表してはどうか。</p>			
<p>行政側 エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	みどりのカーテン事業	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月15日～10月29日（募集の事前告知から表彰式まで） 場所：西東京農業協同組合かすみ直売センター、青梅ガス株式会社本社
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容（実績値等）	市内の一般家庭を対象にみどりのカーテンモニターを募集。地球温暖化防止のため、家庭でできる省エネの取組みとして、みどりのカーテンづくりを紹介し、育成のためのゴーヤの苗を配布している。また、葉を上手に育成することが遮熱効果等を高めるため、配布時に育成方法の指導を実施している。育成後は、一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバックし、活用している。
(5) 事業経費（決算額）	21,881円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数：20人程度（表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス株から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス株を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側：周知活動（広報・ホームページ）および受付等の事務、表彰式会場運営協力

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：3団体が独自チャンネルを使い広報することで広いセグメントの市民にみどりのカーテン事業の内容が周知されている可能性があり、環境保全意識高揚と省エネルギーを意識した暮らし方の伝播浸透に貢献しているものと考えている。</p>			
<p>行政側：みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。受賞作品選定において、J A西東京の専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス（株）のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：(11)の反面、コンテスト応募者の高齢化、固定化が顕著。若～中年層の取り込み策を具体化していきたい。審査基準変更もしくは若～中年層向けの対象賞新設の検討（副賞選定と予算見直し含む。）、市民に投票してもらいコンテストへの関心を高める仕組み等を基に今後の応募につなげる施策が必要と考えている。 例）市ウェブサイトまたはFacebookやinstagramなどSNSを利用した得票審査／フォトジェニック要素等</p>			
<p>行政側：みどりのカーテン事業全体を通して、参加者の固定化がみられるため、今後は募集の方法や内容を変更するなどして、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体を増やすよう検討したい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	ガサガサ水辺の探検隊	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年7月2日（土） 場所：市民球技場周辺の河原
2 継続事業	
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容（実績値等）	川での安全な遊び方教室、参加者が魚をつかみ取りして自分で焼いてみる、ガサガサ水辺の生物捕獲等。
(5) 事業経費（決算額）	125,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数：青梅・多摩川水辺のフォーラム
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。ガサガサ水辺の探検隊のイベントでは、ヤマメのつかみ取り、カッターナイフでの調理、串打ち、塩焼き、ガサガサ探検など行なうことが多く、フォーラム内の打ち合わせを重ね、改善策を検討実施し、成功裏に終了することができた。</p>			
<p>行政側： 当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠めるものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 魚とり網、飼育ケースは7月のガサガサ水辺の探検隊でも9月の多摩川まるごと遊び塾でも使用し老朽化している。フォーラム内部では市民による実費負担の意見も出てきているので、できれば市からの補助・提供をご検討いただきたい。</p>			
<p>行政側 夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。特に今回は熱中症になった参加者もいたため、参加者の健康面への注意も、今後一層徹底していく必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成28年9月3日(土) 場所:市民球技場周辺の河原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館(多摩川に棲む魚等の展示や解説)。
(5) 事業経費(決算額)	249,475円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数: 青梅・多摩川水辺のフォーラム
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめ環境市民会議水辺チームから協働提案があったことを契機に、平成19年度から協働を行っている。「ふるさとの川プログラム」の親水事業の拡大にともない、現在の形に移行。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側: 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側: 市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。開催予定日の5日前に台風10号が通過し、開催が危ぶまれたが、安全を最大優先課題として行政側と相談して実施内容を確定した。またイベントを行なう場所の草刈りを行政側に行なっていただき安全にイベントを実行できた。行政側との連携はよかったと思います。</p>			
<p>行政側: 当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側: 魚とり網、飼育ケースは7月のガサガサ水辺の探検隊でも9月の多摩川まるごと遊び塾でも使用し老朽化している。フォーラム内部では市民による実費負担の意見も出てきているので、できれば市からの補助・提供をご検討いただきたい。</p>			
<p>行政側: 夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	がんばれ！あゆっ子2016 「稚鮎の放流と多摩川生物の生態系調査」	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年5月15日（日） 場所：釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容（実績値等）	稚鮎の放流とヤマメのつかみどり、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏らの講義を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費（決算額）	81,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数：12名
(3) 協働の提案者	2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかった 2 あまりできなかった 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側： 市役所との共同事業を行う事により、参加市民との信頼関係がより強くなり、事業終了後も電話等による質問等もあり、自然保護などの趣旨が参加者により理解を得られたと思う。			
行政側： 市民にとって身近な多摩川における現状と、天然鮎の遡上に関する課題といった、普段耳にすることのない問題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きいと考える。また、会の持つマンパワーと豊富な経験は、当日の運営に安定感を与えている。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
更なる、人にとっての自然の大事さ、青梅にある美しい自然を体験してもらいそれを大切にす る気持ちを多くの市民に理解、行動してもらいたい。			
行政側： 当日は、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視 野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	奥多摩川の魚を釣ってみよう子供の昔ながらの釣り体験教室と多摩川魚類生息調査	担当課	環境政策課管理係
------	---------------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年7月17日（日） 場所：釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容（実績値等）	子どもでも簡単に釣れる釣りに挑戦。懐かしいアンマ釣り体験と釣れた魚の説明を行った。
(5) 事業経費（決算額）	15,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数：9名
(3) 協働の提案者	2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 市役所との共同事業を行う事により、参加市民との信頼関係がより強くなり、アンマ釣りを通して多摩川に生息する魚類、虫類、爬虫類等、自然の中での食物連鎖などの説明も真剣に聞いてもらえ青梅の自然を大切にすることの大事さをよく理解してもらえたと思う。</p>			
<p>行政側： 昔懐かしい釣り体験は参加者全員が魚を釣ることができ、大自然の中で遊びながら、魚をはじめとする生き物について学習することができ、大変有意義な教室であった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側： アンマ釣りで釣った魚はどのように生まれ育っているのか、増殖するにはどうしなければならないか等を、奥多摩漁協のご協力も得て、ウグイの群来付け体験、その後の状況観察など、青梅の多摩川でなければ体験できない事にチャレンジできればと思います。</p>			
<p>行政側： 夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底が一層必要である。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	親子魚釣り教室 2016 (つりはたのしいね！思い出の釣り)	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年10月23日（日） 場所：奥多摩フィッシングセンター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容（実績値等）	溪流釣りの未経験の参加者に、しかけ作りから一つひとつ順に指導して、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏の講義、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費（決算額）	154,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数：12人
(3) 協働の提案者	2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：広報による募集。また、応募された市民への対応等市役所ならではのご対応をして頂き、会場としては青梅の西の端にあたり交通条件の悪いところでも多くの市民が参加して頂いた。また、環境政策の担当職員の方も一生懸命と一緒に活動して頂き、参加者も普段あまりなじみのない魚釣りを通して、尊い思い出を作ることが出来たと思います。</p>			
<p>行政側：協働団体の持つマンパワーは、当該事業にも十分に発揮されており、指導者の経験も人材も豊富である。このことは、当該事業の安全管理および参加者への対応も十分になされるということであり、行政だけでは不十分な点を協働団体がフォローする、理想的な形といえる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：出来れば、大人の介入は指導のみにしていけば、子供たちだけの思い出作りも出来ると思います。ガキ大将制を取るのも面白いかとも思います。レポートしてくる参加者も出てきているので参加親子で、子供たちで、教え合うのもお互いを思いやる心の育成にもなるので、ぜひこれからの課題としていきたいと思います。</p>			
<p>行政側：後半、子どもたちが大人の目の届き辛い範囲に散っており、その点については注意したい。 今後も、自然環境への関心が深まるよう、事業内容について充実させていきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー！ （霞川子どもの水辺登録10年記念）	担当課	環境政策課管理係
------	---------------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年6月25日（土） 場所：市内を流れる霞川・霞川の天本橋と藤の木橋の間
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容（実績値等）	身近な霞川をフィールドとした自然体験（水遊び、魚とり、虫捕りなど）。
(5) 事業経費（決算額）	92,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：霞川くらしの楽校 参加人数：霞川くらしの楽校会員8名
(3) 協働の提案者	2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側：「広報おうめ」による募集で参加する子ども達が多い。			
行政側：子どもたちが自由に参加でき、多くの方々が参加し、霞川の関心の高さを窺えた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側： (1) 会場は草が密集しており、蜂、蛇の対応、どの事業で言えることであるが、トイレが遠く低学年の子どもには申し訳なく思っている。仮設のトイレが欲しい・・・（レンタル） (2) 会場付近には日陰が無く、真夏に開催する時は熱中症の心配がある。テントをもう少し増やす必要がある。			
行政側： 霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	かすみ川であそぼ！いかだあそび in 霞川Part 8	担当課	環境政策課管理係
------	-----------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年7月23日（土） 場所：市内を流れる霞川・霞川の天本橋と藤の木橋の間
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容（実績値等）	手製のいかだで川を上ったり下ったり、子どもたち自身でいかだを操る川遊び。
(5) 事業経費（決算額）	116,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：霞川くらしの楽校 参加人数：霞川くらしの楽校会員、いかだ作りと操作指導講師ほかボランティア含め22名
(3) 協働の提案者	2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 広報おうめでの募集は広く市民に行きわたる。またライフジャケット、ヘルメットなど数多く用意されていて心強い。毎年中学生が複数応援に来てくれるが、青梅市との協働という事で中学生達も頑張ってくれている、又小学生との交流が出来て良い傾向である。</p> <p>行政側： 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。また、水難救助指導もやっており、非常に有益な事業であった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：</p> <p>(1) 開催場所が交通不便な所にあり、参加者はどうしても車で来るが駐車場が無いのでどうしても農道に駐車することになる。畑の持ち主に駐車する旨毎回断りを入れているが、農道がある範囲で利用できる「使用許可」みたいなことを市側で取り組めないか？公道の場合は道路使用許可書（警察署扱い）。農道の場合は？</p> <p>(2) トイレの問題・・・会場から遠く参加者に不便をかけている、レンタルトイレが借りられると良い。</p>			
<p>行政側： 夏場の水辺での事業になるため、安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業に参加してもらうための工夫が必要であると感じた。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	霞川で遊ぼう 僕も私も釣り名人・お魚釣りに挑戦しよう	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年10月15日（土） 場所：市内を流れる霞川・霞川の藤の木橋と城山橋の間
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容（実績値等）	霞川での釣りの体験指導、釣れた魚の説明。
(5) 事業経費（決算額）	42,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：霞川くらしの楽校 参加人数：霞川くらしの楽校会員、ボランティア、指導者含め10名
(3) 協働の提案者	2. 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側：事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 募集について広報おうめで行っているので広く市民に行きわたっている。今回は「お魚釣り」であったが募集定員より多くの参加があった。会場を以前の場所から下流部に移した。この会場は他の場所と違い水深があるため、ライフジャケットを着用させたが、青梅市で用意してくれているので助かった。</p>			
<p>行政側： 多くの市民に参加していただいた。いつも活動している場所と違っていたが、多くの参加者が楽しんでいた光景を見ると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側： (1) 他の事業と同じくトイレが遠く、参加者には不便をかけている。 (2) 会場が遠く且つ交通の便が悪く、車で来る人が多い、駐車スペースの確保が課題、今は地主さんに事業があることを話し判ってもらっているが、全ての地主さんには出来ない。</p>			
<p>行政側： 霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」（5月、12月） 飼い主のいない猫のための「里親会と相談会」（9月）	担当課	環境政策課管理係
------	--	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：5月22日（日）、9月24日（土）、12月10日（土） 場所：青梅市役所西側（正面玄関前）
2 継続事業	
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容（実績値等）	里親会と相談会を実施する。
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「W I S H」、いのちを考える会・青梅、西多摩猫を救う会 参加人数： 5月22日：89人 9月24日：120人 12月10日：79人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 当日の運営 行政側： 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側 市役所で行うことにより、市民へのアピールができた。			
行政側 ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 里親会と相談会のすみ分けをしてほしい。 会場に猫を持ってくるのが難しい。			
行政側 事業の内容については、ボランティア団体と事前の打ち合わせを密にして、調整していきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	動物愛護啓発映画上映会	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年3月18日（土） 場所：青梅市役所本庁舎2階 204、205 会議室
1単年度事業、2継続事業	
(2) 事業の目的	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(4) 実施内容（実績値等）	映画『先生と迷い猫』の上映を行った他、参加したボランティア団体の活動に関する展示ブースを設けた。
(5) 事業経費（決算額）	43,200円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、西多摩猫を救う会 参加人数： 38人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	飼い主のいない猫についての周知も目的としているため、青梅市飼い主のいない猫譲渡事業補助金の交付対象団体であるおうめ猫の会と協働で実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 活動に関する展示ブースの設営 行政側： 上映会の設営、実施

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 市民に対する動物愛護への啓発になった。			
行政側 ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、市民に目を向けてもらう機会が持てた。各団体の活動内容も紹介することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 動物愛護に関する映画が少ない。 また、今回の映画も、内容は良かったが、暗かったように思う。市民が動物と暮らす事で、生きがいや優しさを感じ、ほのぼのとした気持ちになるものが望ましいと思う。			
行政側 映画会で上映するのに適した動物愛護に関する映画が少なく、選定が困難となってきた。 来年度はボランティア団体と協議し、プログラム等を選定していきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：1回目 平成28年5月12日～平成29年2月28日 場所：市内各所
2 継続事業	
(2) 事業の目的	公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	実施予定頭数 313頭
(4) 実施内容（実績値等）	手術実施頭数 311頭
(5) 事業経費（決算額）	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： いのちを考える会・青梅、おうめ猫の会 参加人数：
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠が利用できることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側： 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働することで、公共性のある活動を市民が認識してくれるので、協力を得られやすく、スムーズに活動を行うことができる。</p>			
<p>行政側 行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 チケットの申請方法の変更により、計画性が今以上に必要になる。 市民から行政に入った「飼い主のいない猫」の相談は、すべて話を団体に降ろしてほしい。</p>			
<p>行政側 来年度から「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請方法が変更されるため、より一層、行政とボランティア団体との連携を緊密に行っていく必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	おうめこどもエコクラブ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	<p>期間：平成28年4月16日（土）、6月25日（土）、7月30日（土）、8月11日（木）、12月3日（土）、平成29年2月19日（日）</p> <p>場所：青梅市新町市民センターほか</p>
2 継続事業	
(2) 事業の目的	<p>青梅市の財産である、青梅市の自然について、市内の子どもたちや保護者に伝え、自然環境についての理解、環境活動への視野を広げる</p>
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	<p>自然観察、農業体験、リサイクル活動等を通じて、自然環境についての理解を深める。</p>
(4) 実施内容（実績値等）	<p>平成28年度は6回実施し、子ども125人、保護者75人が参加した。</p>
(5) 事業経費（決算額）	<p>0円</p>

2 協働の内容

(1) 協働の形態	<p>2. 事業共催</p>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	<p>団体名：民立おうめ楽校</p> <p>参加人数：おうめこどもエコクラブ 各回3～7人</p>
(3) 協働の提案者	<p>2. 団体等からの提案</p>
(4) 協働の理由・きっかけ	<p>平成25年度から新たな事業として提案があった。</p>
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<p>1. 計画段階</p> <p>その他の場合具体的に（</p>
(6) 役割分担	<p>市民側：講座当日の事前準備・運営、年間計画の立案、エコクラブ組織の運営</p> <p>行政側：広報等による周知、会場準備</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 毎年話し合いを持ってきましたが、今年は特に協働のかたちをどうするかお互いに意見を出しながら来年度を見据えて活動できた年となりました。青梅市民が子どものときから、自分の身の周りの環境を考え未来へとつなげていくにはどうしたらいいか？そのために、少しずつ活動してきたつもりです。25年から協働をさせていただき4年。もう少しエコとは何か？環境を知る、守るってどういうことか？原点に立ち返る内容も必要かと、29年度はそんな内容もいれて活動しようと思っています。毎年何が活動に欠けているか考えながら、飛躍していったのも、青梅市とともに歩み、市の状況を知ることができ、活動を支えていただけたからです。29年度より協働事業ではなくなりますが、今後も市民活動として定着した活動を行っていきたいと思います。4年間本当にありがとうございました。そして、今後も引き続き、応援宜しく願いいたします。</p>			
<p>行政側： おうめこどもエコクラブのスタッフは、優秀かつ活動的で人間味があり、質の高い事業が実施できた。一方で行政の役割も小さくなっており、協働の形体で行っていく必要性が小さくなっていった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側： 青梅市にはこういう環境問題があるから、互いに解決にしていきたいと思いますという活動内容がもう少し必要だったのかなと思います。小さい子が多かったことから、啓蒙活動が中心になっていたのでないかと反省しています。しかしながら、29年度より、エコクラブの主要メンバーが保護者へと変更になりました。保護者になったことにより、はじめての活動運営で大変な部分もあるかと思いますが、市民活動としては根付いていくと信じています。エコクラブ事業は、官民一体となった環境教育政策として、地域のつながりや協力体制を保つためには有効であると思っています。今後も青梅市と協力しながら活動できるように頑張っていきたいと思っています。そして、育った子どもが青梅を想い、おうめこどもエコクラブを引っ張り活動していってもらえるようなエコクラブになれるように精進していきたいと思っています。</p>			
<p>行政側： 来年度から協働ではなくなるが、これまでの質を維持しつつ、子ども向けの環境教育を実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	「ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「ごみ収集カレンダー」の音声化事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	--	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日 場所：特になし
2 継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に「ごみは、資源である」という認識をしていただくため、青梅市における正しいごみの分別方法とリサイクル方法についてを音声版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	申込希望者5人
(4) 実施内容（実績値等）	平成23年4月発行の「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」の変更箇所および平成28年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声版（デージー図書）の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績4人。
(5) 事業経費（決算額）	1, 5 1 2 円（音声用CD-R）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：朗読ボランティアグループみすず会 参加人数：11人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	朗読ボランティアグループみすず会からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：CDに音声データを収録し、行政側に提供する。 行政側：広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へダビングしたCDを配布する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 リサイクル・ごみ分別に関する情報を視覚障害者に提供することができ、青梅市のごみ減量の一助になったと考えている。</p>			
<p>行政側 視覚障害者向けとして点字版のカレンダーも作成、配布しているが、点字はかなり勉強しないと読むことができなく、読める方は視覚障害者の1割程度とのことである。それに対し、音声版では、CDを専用の機器またはパソコンで読み込めば簡単に聞くことができ、より多くの視覚障害者が利用できる。また、利用者からもごみの分別排出にとっても助かっているとの声もある。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 みすず会での人手不足が進んできたことにより、協働事業継続が困難になってきている。そのため、平成30年度から本協働事業を辞退したい。</p>			
<p>行政側 みすず会および利用者の意見も聞き、問題点については改善に向け努力していく。さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	生ごみ堆肥化（ダンボールコンポスト）事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	----------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：講習会：平成28年5月13日、14日、7月29日、10月7日、8日 勉強会：平成28年6月11日、11月19日 場所：講習会：市役所玄関前ロータリー、2F喫茶コーナー横テラス、2F会議室 勉強会：2F会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	家庭から排出される生ごみをダンボールコンポストを利用して堆肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	モニター申込み希望者計150人
(4) 実施内容（実績値等）	参加者に対して家庭で簡単にできる生ごみ堆肥化方法を直接指導し、その後、勉強会等でフォローする。これにより生ごみの減量、資源化を促進する。参加者計79人。
(5) 事業経費（決算額）	139,743円（ピートモス、もみ殻くん炭等消耗品）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅・生ごみグルグルネット 参加人数：6人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ減量に生ごみ堆肥化は有効な施策であること。 また、市内に堆肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：講習会・勉強会の進行 行政側：広報おうめ、市ウェブサイトによる周知、消耗品等の準備・会場設営

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 生ごみ減量の効果としては数値に出ないので不明である。申込者が年々減ってきているが、参加した方は続けていこうとする人が多く、長い目で見れば生ごみの減量につながっていると思う。</p>			
<p>行政側 毎年コンスタントに応募があり、アンケート回答でも多くの方が継続したいと考えており、生ごみの減量、資源化に有効な事業である。 また、平成28年度は小学生向けに夏休みの自由課題等で取り組んでもらえるよう7月に講習会を開催し、熱心に話しを聞いている方がいるなど、環境教育の観点からも効果があったと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 春秋の講習会、勉強会に加えて、夏の小学生向けも加わった。これについては、「夏休みの自由課題」ということなので、大人向けのものよりもさらに内容をかみ砕いたりして、子供にもわかりやすいように工夫を凝らす余地があると考え。</p>			
<p>行政側 募集方法について、従来からハガキでの応募のみで受付けていたが、ハガキでの申し込みが手間であるという声があったため、10月の講習会から電話または窓口で直接申し込みに来てもらうか2通りとした。その結果、昨年度より参加人数が増加したため、今後も同様な対応で募集を行い、多くの方に参加してもらいたいと考えている。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日 場所：特になし
2 継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に、青梅市における正しいごみの排出日について点字版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	申込希望者5人
(4) 実施内容（実績値等）	平成28年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績4人。
(5) 事業経費（決算額）	4,055円（点字プリンター用紙）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅点訳グループ 参加人数：8人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側：広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
市民側 希望する人に期限までに作成し、届けることが出来た。			
行政側 視覚障害者の中で点字を読める方にとって有益である。 また、視覚障害者で点字を勉強しており、良い教材にもなっているとの意見もある。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 ・リサイクルハンドブックの点字版作製から月日がたち、改定された箇所があるが、視力障害者の方には、どのようにして、知らされているのか、気になっている。点訳が必要であれば、知らせて欲しい。 ・依頼が早かった（2月初め）ので、余裕をもって取りくめた。			
行政側 点訳グループおよび利用者の意見を聞き、問題点については改善に向け努力していく。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業	担当課	高齢介護課 高齢者支援係
------	------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日 場所：市内一円
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。
(5) 事業経費（決算額）	必要経費はありません。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 見守り協定締結事業者 参加人数： 29事業者
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側： 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域において活動する事業者がゆるやかな見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う</p>			
<p>行政側 民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 民間事業者等による日頃の事業活動に際して行うゆるやかな見守りのため、協定締結事業者等を増やしていきたい。</p>			
<p>行政側 地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢介護課包括支援係
------	--------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年9月から12月 3か月間 場所：市内の自治会館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	上記（2）事業の目的に同じ
(4) 実施内容（実績値等）	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費（決算額）	平成28年度支出済額 197,316円（消耗品）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 高齢者クラブ（3か所） 参加人数：延135人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 会員への周知、会場準備 行政側： ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定（握力、開眼片足立時間、10m歩行速度）

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。</p>			
<p>行政側 健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。</p>			
<p>行政側 介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月から3月 場所：利用を希望する団体・グループ等が確保した会場
2 継続事業	
(2) 事業の目的	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	サポーター数 延べ421人
(4) 実施内容（実績値等）	1. 認知症の基礎知識（認知症とは何か、認知症の症状とは）、早期診断・治療の重要性、権利擁護等 2. 認知症の人への対応、家族への支援、サポーターとしてできること等
(5) 事業経費（決算額）	平成28年度支出済額 66,800円需用費（消耗品費）、2,000円通信運搬費

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：市民の地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者等 参加人数：延べ421人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成18年7月厚生労働省老健局長通知により、本事業の推進を図るため。 団体からの提案：参加団体の年齢層により、研修内容を変えて欲しい。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：研修を希望する団体・グループ等は、申込および会場の確保や準備、機材の用意等を行う。 行政側：キャラバン・メイト講師派遣、事業実施計画申込と副本の申込

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側：認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくり。			
行政側：今後も認知症サポーターが増えるよう呼びかけていく。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側：特になし			
行政側：今後も認知症サポーターが増えるよう、小・中学校、総合高校、多摩高校に呼びかけていきたい。また、商店街や企業、介護保険施設へも呼びかけていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	介護サービス相談員派遣事業	担当課	高齢介護課包括支援係
------	---------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月から3月 原則として毎週水曜日実施 場所：介護保険施設等または居宅
2 継続事業	
(2) 事業の目的	介護保険施設等または居宅を訪問し、介護サービス利用者等の話を聞き相談に応じる等の活動を行う相談員を派遣することにより、介護サービスの実態を把握し、利用者と事業者の橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質的向上を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	延べ167回 564人
(4) 実施内容（実績値等）	1. 介護保険利用者および家族からの相談等に応じるため、介護保険施設等および居宅を訪問すること。 2. 介護サービス提供事業者等への働き掛けをすること等。
(5) 事業経費（決算額）	平成27年度支出済額 1,238,465円報酬（非常勤職員報酬）8,112円旅費（費用弁償）65,880円負担金、補助および交付金（負担金）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：一般市民公券 参加人数：5人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ：平成12年4月介護保険法が施行され、介護サービス適正実施指導事業の実施を図るため。	団体からの提案：なし
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：介護保険施設等または居宅を訪問し、介護保険利用者および家族からの相談等に応じる。 行政側：介護サービス相談員が、相談等に応じた内容について、困難事例等施設やケアマネジャーに対し対応報告することにより解決する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側：介護保険施設等においては、介護サービス利用者の不安、不満、疑問等にきめ細かく対応することで、苦情に至る事態を未然に防止するための働きかけを、介護サービス提供事業者へ行うことができる。また、利用者と事業者へ橋渡しを行っていきることにより、介護サービスの改善が図られ、介護サービスの質の向上・適正化に貢献することができる。</p> <p>居宅では、利用者の孤立や不安の解消を図ったり、適切な情報提供を行うことで介護サービスの適正な利用につなげることができる。</p>			
<p>行政側：介護サービス相談員について周知するとともに、特に居宅訪問を増やせるよう、強化していきたい。月1回開催されている連絡会（相談員、事務局）についても、報告以外に情報共有・提供の場とし継続していきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：介護サービス相談員の研修は、年1回現任研修がある。それ以外に市職員による、介護保険サービス全般、介護保険制度、介護保険料、関連機関（後期高齢者医療制度、国民健康保険制度、生活保護法等）についても行っていきたい。</p>			
<p>行政側：介護サービス相談員のスキルアップ、共有すべき事項もあるため、相談員、事務局、関連機関との連絡会も必要に応じて行っていきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢介護課包括支援係
------	--------------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成18年8月から年2回開催 場所：青梅市役所会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	あり。高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談ができ、今まで課題が実現化する基盤ができた。
(4) 実施内容（実績値等）	1 高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2 高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3 養護者に対する支援に関すること。4 高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費（決算額）	委員報償金 23,000円（予算額23,000円）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：社会福祉協議会の代表1人、民生児童委員会合同協議会の代表2人、東京弁護士会の代表1人、ケアマネジャー連絡会の代表1人、人権擁護委員の代表1人 参加人数：6人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ：平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため	団体からの提案：
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側：体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側： ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。			
行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。ケア会議の開催時出席②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側： 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。			
行政側： 虐待の早期発見、虐待通報の徹底化により、早期に関係機関が介入する体制を強化でき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。①緊急一時保護先の確保 ②高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	担当課	障がい者福祉課庶務係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年11月12日（土） 場所： 富士花鳥園（静岡県富士宮市）
1単年度事業	
(2) 事業の目的	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	青梅市障害者団体連合会との協働事業とすることにより、よりよい見学先を選定することで、多くの障害者の参加を得る。
(4) 実施内容（実績値等）	大型バス2台を借り上げ、富士花鳥園を見学した。60人の参加を得た。
(5) 事業経費（決算額）	参加者負担額：155,620円（入場料、保険代等） 青梅市負担額：333,240円（リフト付き大型貸切観光バス代（2台分）、有料道路代）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市障害者団体連合会 参加人数： 3名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先の選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていたため、平成25年度からは協働事業として位置付けた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 見学先の選定、参加者の受付、当日の運営等 行政側： バスの借上げ、広報おうめへの記事掲載、申込用紙の作成、参加者の受付、しおりの作成、当日の運営、精算業務等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：青梅市障害者団体連合会の各団体は、高齢化と共に旅行の担当も出来なくなり、数年前まではあゆみの会がしおり等作成し参加者にも郵送するなどかなりの負担がありましたが、ここ近年は行政がかなり関わっていただき、行程の話し合いも障がいの違い等考慮していただき一緒に色々考えていただきました。当日も障がいの家族を連れての関わりでしたので行政の受付・集金等大変助かりありがたく思いました。</p> <p>行政側：限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定および行程案を作成いただいたことにより、多くの参加者を得ることができた。また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側：隔年の身体障がい者の旅行は知的・精神障害の旅行とは違い、身体にそれぞれ異なる障がいがある団体の旅行なので、まず行先が果たして車椅子対応出来るのか？重度の身体の方がおむつを替える大きなベット付きトイレがあるのか？視力障がい者が耳と手で触れて楽しめるのか？聴覚障害の方が目で見て楽しめるのか等、毎回行程には悩みます。なので行きたくてもトイレや休憩時間を考えると行けないという方もいます。また日程も秋の土曜日という設定なのでかなり渋滞、平日での旅行が可能ならば多少ゆっくり行く事が出来るのではないかと思います。また、今回当日不参加の方の食事等で少し行違いがあり細かい点の確認が必要だと感じました。</p> <p>行政側 本事業は、隔年で「身体障害」か「知的・精神障害」がある方を対象に実施している。平成28年度は「身体障害」がある方を対象に実施したが、11月の紅葉シーズンのため、高速道路が渋滞し休憩時間を短縮するなど行程に若干の遅れが生じてしまった。行程を組む際には参加者の負担を軽減すべく、渋滞等も考慮し余裕のある行程としていきたい。また、身体障害は視覚、聴覚、下肢障害等さまざまであるが、どの障害をお持ちの方でも楽しめる場所の選択をしていく必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	お助けマン養成講座フォローアップ研修	担当課	障がい者福祉課 相談支援係
------	--------------------	-----	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成29年1月22日（日） 場所： 市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅市地域自立支援協議会の「障害者への理解と啓発部会」が、障害者に手を貸したいと思っても方法がわからずにいる方々、助けを求めたくても求められない方々の意識の掘り起しをすることを目的に「お助けマン養成講座」を3年間実施し、最終年としてフォローアップ研修を実施しました。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	お助けマン養成講座を受講し、障害者ボランティア登録。 障害者施設のボランティアの参加者を増やす。
(4) 実施内容（実績値等）	お助けマン養成講座に参加した人のうち14名参加
(5) 事業経費（決算額）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市障害者地域自立支援協議会、青梅市社会福祉協議会 参加人数： 14名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市は施設や病院が非常に多い地域であり、どの施設等も歴史が古い。それは専門性の高い熟練した福祉職が多いということであり、それは青梅市の地域資源であると考え。その資源活用を頼みとして企画した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、当日の司会進行やファシリテーター等 行政側： 講座開催場所確保、開催通知送付、講師依頼、広報周知、

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 協働で開催することで、市民の要望を把握しやすく、要望を反映させる形でスムーズに事業が実施出来た。また、フォローアップ講座であり、障害者への理解に関心の高い市民を対象にした為、理解が深まり、障害者の理解の推進に寄与出来た。</p>			
<p>行政側 協働により、市民からの意見を反映して事業が実施できた。障害者の理解の推進に寄与した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側： フォローアップ講座と限定した事もあるが、人数が少なかった為、今後は周知の方法が課題である。</p>			
<p>行政側 フォローアップ講座と限定した事もあるが、人数が少なかった、今後は、講座を行っている際にフォローアップ研修がある事をもっと周知する必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	平成28年度 入門・初級手話講習会	担当課	障がい者福祉課 認定サービス係
------	-------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間： 入門（平成28年4月全3回） 初級（平成28年5月～全30回）</p> <p>場所： 青梅市福祉センター</p>
<p>1単年度事業</p>
<p>(2) 事業の目的</p> <p>1. 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること 2. 日常会話の技術を習得する。ろうあ運動の歴史および聴覚障害者の活動について学ぶこと 3. 手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進すること</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等）</p> <p>初級手話講習会終了後、中級手話講習会（定員25人）に移行し、より学びを深め、手話サークル等に属し活動することで、聴覚障害者の社会参加等に寄与していく</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等）</p> <p>初級手話講習会に39名の受講者あり。25名が平成29年度中級手話講習会に申し込む。</p>
<p>(5) 事業経費（決算額）</p> <p>165,000円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>2. 事業共催</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名： 青梅市聴覚障害者協会</p> <p>参加人数： ろう講師1人 ろうアシスタント1名</p>
<p>(3) 協働の提案者</p> <p>2団体等からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ</p> <p>青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>2. 実施段階</p> <p>その他の場合具体的に（</p>
<p>(6) 役割分担</p> <p>市民側： 講習会の運営</p> <p>行政側： 会場の確保、講師報奨金の助成</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 日頃より青梅市聴覚障害者協会に御支援御協力を頂き、感謝しています。また、会場確保につきましては、講習会会場の予約手続きにご協力いただいたおかげで、全30回の手話講習会をスムーズに行うことができました。手話講習会については、厚生労働省テキストを使用し、受講生に教えやすく34名が修了証をもらえました。</p>			
<p>行政側 初級講習会を修了した受講者の多くが、手話に興味を示していただき、中級手話講習会参加につながった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 毎年、障がい者福祉課の手話のできる職員が突然ほかの課へ移ってしまい、相談等のコミュニケーションが困難でした。障がい者福祉課には手話のできる職員が、必ず一人はいて欲しいです。このテキストにより、講師の負担にならないように、手話講習会定員人数を減少したいと思います。昨年に引き続いて、手話言語法による手話講習会を行っていき、差別障害者解消法によって手話に関する後退が起きないように今後も内容の見直しをしていかなくはなりません。今後ともご指導のほどよろしくお願いします。</p>			
<p>行政側 中級手話講習会の修了者が、上級手話講習会に移行し、手話サークル等に所属し、ボランティア等として社会参加していただける方を、増加させていく。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	第47回おうめ健康まつり	担当課	健康課健康推進係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：28年6月5日（日） 場所：青梅市役所（1階ロビー、2階会議室等）
2 継続事業	
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	自分の健康は自分で守るという自覚を持って健康づくりに取り組むためには、保健衛生に関する知識が必要である。おうめ健康まつりにおいて医療関係者による保健衛生知識の普及啓発を行い、健康に対する意識を向上させ、より効率的に市民の健康づくりを促進させること。
(4) 実施内容（実績値等）	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬・ペットなどの相談、血管年齢測定、ヘルスチェック、生活習慣病の予防、栄養、転倒予防教室、ウォーキング教室、梅っこ体操講習会、体操教室等や医師会、歯科医師会、薬剤師会による講演会を実施した。※延べ参加人数5,981人
(5) 事業経費（決算額）	有り 医師等報償金 406,900円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：【共催】 青梅市三師会 【協賛】 青梅市薬業会、青梅市接骨師会、（社）東京都獣医師会多摩西支部、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩地区保護司会青梅分区、西東京農協組合、青梅市民生児童委員合同協議会 参加人数：【共催】 青梅市三師会（16人） 【協賛】 青梅市薬業会（13人）、青梅市接骨師会（11人）、東京都獣医師会多摩西支部（3人）、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩（7人）、西多摩地区保護司会青梅分区（7人）、西東京農協組合（2人）、青梅市民生児童委員合同協議会（14人）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案 2 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	昭和45年から実施しており、理由は不明
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（昭和45年から実施しており、理由は不明
(6) 役割分担	市民側： 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側： 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 来場者に対し専門的（医師等）な立場から情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。</p>			
<p>行政側 来場者に対し、健康づくりに関する情報提供を行い、保健衛生知識の普及啓発を図ることができた。 また、歯科ブースにおいてクイズ・ゲームコーナーを設けるなど、親子で楽しめる企画を行い、家族ぐるみで参加できるイベントを実施することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 来場者の健康状態を把握・分析および相談等を行い、更なる健康づくりが向上するよう検討していきたい</p>			
<p>行政側 より多くの来場者を確保するために、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。</p>			

平成28年度分 協働事業評価シート (表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時 (年末年始を除く) 場所： 永山ふれあいセンター内
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標 (数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容 (実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。 (利用者数 4, 166人)
(5) 事業経費 (決算額)	2,827,600円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人青梅ファミリーサポートはあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に (
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
乳幼児の親子が快適に過ごせる場所で、利用者同士やスタッフ達のふれ合い、関わりの中で子育てに対する安心と子育てに関する情報を共有することができた。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 より良い活動を行うため、子育てに関する情報、知識を積極的に学び、意見交換し実践していきけるようにする。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	子育てひろば一般型事業（にこにこ広場）	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	---------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週水、木、金曜日 午前11時～午後4時（年末年始を除く） 場所： 東青梅1-7-7 青梅こども未来館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容（実績値等）	青梅こども未来館「にこにこ広場」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。（利用者数1,677人）
(5) 事業経費（決算額）	1,589,890円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人青梅こども未来 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公募により、平成24年10月から市内NPO法人こども未来に事業委託し、ひろば事業C型として実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が 「にこにこ広場」 の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	2	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <p>①ひろばが健康センターに近いので、歯科検診などの乳幼児向けイベントのお知らせが随時できた。健診前に来館し、不安な気持ちを利用者同士やスタッフと話すことで、落ち着いて検診に向かうことが出来ているようだった。また、検診前に昼食を済ませたり、終わってからの授乳のために立ち寄る親子もあった。</p> <p>②毎月発行される「青梅子育てひろば 遊びのホットステーション」で、市内全域の他の広場の日程や行事内容が確認でき、来館者に知らせることが出来た。</p>			
<p>行政から</p> <p>乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施することにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側</p> <p>①立地条件が良いことも含め、利用者から好評を得ていた広場であり、運営に関わるスタッフも地域に根差した広場を目指し日々意欲的に取り組み、行政側担当者とも協力体制が整ってきた矢先の、年度途中での突然の閉鎖は大変に残念だった（上の表の（8）設定した目標が達成されたの評価を「2」とした理由）。</p> <p>②今後も、必要な子育て応援について行政側と意見交換を行い、乳幼児親子が安心して集える場の提供に関わっていきたいと考える。</p>			
<p>行政側</p> <p>市役所にも近く、またさまざまな行事なども行い、利用者からも好評を得ていたが、8月で廃止されてしまった。小規模な広場の有効性などにここの広場に代わるサービスについて引き続き検討していきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年（事務局は平日開設） 場所： 利用会員の要望する場所（事務局は、東青梅センタービル3階）
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容（実績値等）	子育て支援を求める者（利用会員）と子育てを支援する（提供会員）による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 （会員数 844人 利用件数 2,015件）
(5) 事業経費（決算額）	6,986,814円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名（事務局に係る人数）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員（協働）事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： （会員）相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施（NPO法人）事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 孤立しがちな子育て家庭を地域につなげ、持続的な子育て支援を行うことができた。個々の事例において、行政からの適切な助言、情報提供を受けることでより有効な支援ができた。会員募集や養成事業等において広報媒体の提供をはじめ、行政からのバックアップによって、円滑な運営を行うことができた。</p>			
<p>行政側 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 支援を必要とする子育て家庭へ制度の周知をしていくために、行政の諸関連機関との連携を深めたい。今後さらに安全かつ有効な支援をしていくための改善策について、相談していきたい。</p>			
<p>行政側 子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度・利用者増加に向けた周知方法の検討が必要である。 個々の事例について会員の立場に立った適切な対応を図っていけるよう支援に努めていく。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	子育てネット事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	----------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所： 事務局 勝沼3-78 KTホール2F
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市の子育て支援サービスや子育てに関連情報をホームページを通じ、広く分かりやすく提供し子育て支援をする。
(4) 実施内容（実績値等）	子育てに特化したホームページの開設および運営(年間アクセス数 327495 件)
(5) 事業経費（決算額）	1, 634, 000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数：HP担当スタッフ15名+記者スタッフのべ40名程度
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。 行政側： ホームページの基本管理、市の情報提供等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 情報の得る手段として、HP、SNSなどの利用が子育て中の方を含めて身近になってきている。行政情報と市民目線の情報の両面が大切になってきているので、協働の意義が大きい。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一方的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を楽しく伝えることができた。また、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 新鮮な情報や市民ロコミ的な情報を掲載することでアクセス数の増加につながる。行政の立場的には提供することの難しい（民間的）な情報をますます提供することが課題。子育て中の方が、気軽に情報提供側になれるようなシステムをつくる事も課題です。</p>			
<p>行政側 ホームページの充実、特集記事等の充実や掲示板などによる利用者の参加増加につながるよう取り組んでいく。 広報や市HPに掲載しきれない情報の発信の場としても効果がある。広く周知を行うことにより子育てネットのアクセス数増加と、市で行っている様々な事業の参加者増という相乗効果も期待できる。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	子どもふれあいフェスタ2016	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1)	実施期間および場所 期間： 平成28年11月6日 場所： 永山ふれあいセンター
1単年度事業	
(2)	事業の目的 子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3)	事業の成果目標（数値目標等） 子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4)	実施内容（実績値等） 異世代交流コーナー、親子交流コーナー、ゲームコーナー、パフォーマンスステージ、自然体験コーナー、模擬店コーナー（入場者数 1,210 人）
(5)	事業経費（決算額） 350,000円

2 協働の内容

(1)	協働の形態 3. 事業協力
(2)	協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：子どもふれあいフェスタ2015実行委員会（NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体） 参加人数：実行委員参加人数18名（当日は、高校生有志の協力）
(3)	協働の提案者 1 行政からの提案 2 団体等からの提案
(4)	協働の理由・きっかけ 市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5)	協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6)	役割分担 市民側： 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側： 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民の企画立案と行政の施設・備品利用・広報活動など役割分担で充実した取り組みとなっている。事前の打ち合わせに、子ども家庭支援課・社会教育課・市民活動推進課・ボランティア市民活動センターからの参加で幅の広い取り組みにつながっている。</p>			
<p>行政側 子育て支援事業（親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど）を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 財政について一事業には経費がかかるので確保の仕方と内容の工夫が求められている。会場について一永山ふれあいセンターが閉鎖されたあとの実施会場の検討が必要。</p>			
<p>行政側 補助金が逡減してくなかでいかに存続させていくかが今後の課題。利益目的のイベントではないため、どこから予算を調達するかを考えていかなければならない。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課 支援係
------	-----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第2土曜日 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児親子のゆったりのおびりした遊びと情報交換の居場所作り ・ 学童（異年齢）遊びを通しての交流と居場所づくり
(4) 実施内容（実績値等）	NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供（利用者数1,537人）
(5) 事業経費（決算額）	1,059,559円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： 3団体のローテーションで実施。常時2名配置（土曜日のみ3名配置）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 ・利用する児童にとって家庭や学校以外の居場所として定着してきた。 ・利用者が利用者同士の関わりを持ち情報交換などをする事によって子育てをする際の安心に繋がっている。 ・3団体が関わることによってそれぞれの特徴を生かしたプログラムを提供する事が出来た。			
行政側 NPO団体の持つ得意分野を生かし、魅力ある子育て支援事業を行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 ・部屋にカーペットが原因と思われる「独特な臭い」が充満している。衛生面から考えても乳幼児親子・子どもたちが利用するには相応しくない状況なため「床の張り替え」が急務と思われる。 また、窓を開けての換気が出来るよう「網戸の設置」を検討していただきたい。2年後には閉館となる施設と聞いているが「毎回の利用者への配慮」は必要と考える。部屋の環境改善をお願いしたい。 ・企画行事の日程が近隣の学校行事と重ならないように検討していきたい。			
行政側 今後も乳幼児の親子や小学生の安心・安全の居場所作りの場を提供できるよう心がける。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課 青少年担当
------	----------------	-----	-------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年2月5日（日） 場所：青梅市総合体育館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、綱引き大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	幼稚園・保育園児、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門で合計100程度の出場チームより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容（実績値等）	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付・接待・放送・選手・模擬店・会場・商品等各係による当日の大会運営を行う。
(5) 事業経費（決算額）	事業実施委託料 570,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会（11地区） 参加人数：91人（他青梅市スポーツ推進委員協議会、日本綱引連盟公式審判員等総勢約130人）
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。 大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側： 事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会や出場チーム組合せ抽選会会議の開催事務、必要物品や各種資材の調達等も円滑に行われている。また、大会運営については、スポーツ推進委員や綱引連盟公式審判員、青少年対策地区委員が行うことで、スムーズな進行となっている。</p>			
<p>行政側 大会前日の会場設営や当日の出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導について、役員や実行委員の協力を得るとともに、昨年の反省をもとに準備マニュアル等を作成し情報共有を図り、スムーズに進行することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 昨年の反省事項に基づき、準備、担当職員の配置、庶務の役割分担等の検討、改善が行われ、成果は見られている。全ての問題点が改善されてはいないため、引続き改善に努め、より良い大会にしていきたい。</p>			
<p>行政側 広く市民に事業の周知を行い参加者の拡大を図るとともに、今大会における反省点や過去からの改善要望等を踏まえ、参加者から喜ばれる大会として質そのものの向上に努めていきたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課景観係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 6/14、9/13、10/28、2/24、3/17 場所： 青梅市民会館、長野県松本市（視察）
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意識の高揚を図り、景観まちづくりの推進を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	青梅駅周辺の景観まちづくりを推進するため、「青梅宿の景観を育む会」の市民団体と協働で、講演会の開催や機関誌（風景通信）の発行、先進地への視察を行い、青梅駅周辺地区内の景観まちづくりに対する取組みの普及啓発を図る。
(4) 実施内容（実績値等）	青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、景観まちづくりについての講演会の開催（1回）等
(5) 事業経費（決算額）	景観形成助成金（景観まちづくり市民団体への助成）30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅宿の景観を育む会（会員15名） 参加人数： 各回10名程度
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成17年度に、「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」を策定するにあたり、地区内の自治会や商店街の代表者および座談会の出席者で発足した「青梅宿の景観を育む会」と協働で景観まちづくりの啓発を行うこととなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他 その他の場合具体的に（ 計画の意思形成過程 ）
(6) 役割分担	市民側： 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側： 団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域の自治会長および商店会長経験者が組織のメンバーを務めることで、地域住民の景観まちづくりに関する理解を深め、趣きある歴史的建造物や景観の保存に繋がっている。青梅市景観形成重要資源の3棟が、東京都選定歴史的建造物に選定されることとなった。</p>			
<p>行政側 青梅駅周辺景観形成地区における行為の届出についての周知を進めた。また、景観先進地への視察や景観まちづくりについての講演会を実施し、景観まちづくりへの取組に対して共通認識を深めた。 青梅市景観形成重要資源の3棟が東京都選定歴史的建造物に選定されることは、景観まちづくりを協働で取り組んだ成果と捉えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 青梅のまちなみ、歴史的建造物をよりPRすることで、地域や観光客の関心を一層高めていきたい。</p>			
<p>行政側 各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。また、活動の成果が目に見える形で残るように進める必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課公園管理係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間： 6月および9月の第1日曜日 場所： 大塚山いこいの森（大塚山公園隣接地）</p>
<p>2 継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的 みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等） 予定：年間参加人数 延べ240人 実績：※今年度も6月および9月に活動日を設定したが、両日とも雨天のため中止となってしまった。</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等） （大塚山いこいの森内の清掃、除草、下草刈り作業等）</p>
<p>(5) 事業経費（決算額）</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 2. 事業共催</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名： いこいの森を育てる会（近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区） 参加人数：</p>
<p>(3) 協働の提案者 2団体等からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に（</p>
<p>(6) 役割分担 市民側： 管理区分の清掃および下草刈り等（植栽育成に必要な作業） 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	/	/
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	/	/
	(7) 事業実施は円滑になされた	/	/
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	/	/
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	/	/
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	/	/
(11) 協働による効果			
市民側			
行政側			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
行政側			

協働事業評価シート（表）

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課 公園管理係
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間： 毎月第3土曜日（8月を除く。）</p> <p>場所： 永山公園内ボランティア管理緑地ほか</p>
<p>2 継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的</p> <p>公園・緑地内等において、下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的とする。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等）</p> <p style="text-align: center;">年間参加人数（予定延べ100人） ⇒ 実績：参加人数 延べ108人</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等）</p> <p style="text-align: center;">萌芽更新等を目的とした間伐、下草刈および枯損木伐採等</p>
<p>(5) 事業経費（決算額）</p> <p>講師報償金 186,000円 ・ 消耗品費 2,839円 ・ 食糧費 33,045円 ・ 保険料 10,350円</p> <p>合計 232,234円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>3. 事業協力</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名： 緑地管理ボランティア</p> <p>参加人数： 23人（登録人数）</p>
<p>(3) 協働の提案者</p> <p>1 行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ</p> <p>公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的として制度を設置した。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>2. 実施段階</p> <p style="text-align: center;">その他の場合具体的に（</p>
<p>(6) 役割分担</p> <p>市民側： 実施作業</p> <p>行政側： 実施計画の策定</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 毎月の管理作業により、管理区域の自然環境維持が図られている。また、永山公園だけでなく他の緑地管理についても協力ができ、協働のまちづくりに寄与できたとともに、ボランティア会員の親睦が深まった。</p>			
<p>行政側 永山公園の緑地管理ボランティア区域の管理作業はもとより、他の公園の管理作業についても協力をいただき適正な緑地・公園管理を行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動範囲を拡大していくには、新規の会員を取り込む必要がある。</p>			
<p>行政側 登録者はある程度いるものの参加者が一定の人となっていることから、一度登録者の整理をする必要がある。また、会員の高齢化も進んでいることから、会員募集（随時）を行い、若い世代の参加者を取り込む必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅の森保全プロジェクト (青梅の森保全事業)	担当課	公園緑地課計画係
------	----------------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年4月から平成29年3月 場所： 青梅の森
2 継続事業	
(2) 事業の目的	貴重な野生生物の生息の場として保全し、市民と協働して維持体験を行い、未来に引き継ぐ。そして、この地を市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等の気楽に利用できるレクリエーションの場として活用するため。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	青梅の森について、理解を深めてもらうため。 （動植物の観察、ウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に体験してもらい活動への理解と環境等に対する意識の向上を図る）
(4) 実施内容（実績値等）	原木きのこ栽培教室（20名）、ヨシ抜き、ヨシ刈、森林療法（12名） ※（ ）内は一般参加者
(5) 事業経費（決算額）	26,000円（報償費）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅の森いきものネットワーク、青梅さとやま散歩の会 参加人数： 約50名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅の森の事業計画にもとづく運営組織を設置（8団体により構成：組織名＝青梅の森保全プロジェクト）
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 企画、運営 行政側： 事務局全般、運営

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 杣保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。 杣保プロジェクト共同企画により青梅の森の普及啓発をはかることができた。 杣保プロジェクト参加団体の活動及び共同作業により、青梅の森の保全・整備が進んだ。</p> <p>行政側 協働による体験講座等を開催し、市民が参加することにより「青梅の森」が自然と共存できる里山として身近に感じてもらうとともに、保全活動の必要性や関心も深まる。 協働事業により、青梅の森の保全・整備ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 杣保プロジェクト共同企画の市民向けイベントは、きのこ栽培教室や森林療法への参加は多いが、保全活動への参加は少ない。 イベント参加者をリピーターとしてつなぐシステムが不十分である。登録ボランティア制度の確立が必要。 根ヶ布拠点施設を土日曜日に利用できるようにしてほしい。</p> <p>行政側 体験講座等の事業内容、場所、時期、時間、頻度および募集方法を含め運営方法を検討する必要がある。 青梅の森保全活動のPRを行い、市民が参加しやすい環境を創る必要がある。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間：平成28年5月25日～6月19日 場所：吹上しょうぶ公園</p>
<p>2 継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上を図る</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等） 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド（述べ活動人数86人）</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等） 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド（述べ活動人数86人）</p>
<p>(5) 事業経費（決算額） 消耗品費（ガイド用ポロシャツ、プランターなど）：8,704円 印刷製本費（講習会資料印刷費）：3,533円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 3. 事業協力</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数：27人</p>
<p>(3) 協働の提案者 1 行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 来園者へのサービス向上を図る</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に（</p>
<p>(6) 役割分担 市民側： ガイドの実施 行政側： 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側 ガイドボランティアの取組みが更に浸透するよう、来園者に声掛けを心がけ、楽しんでもらえた。			
行政側 来園者にガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 市内の小学生などに公園へ来てもらえる機会を増やし、将来の来園者増に繋がれたらよいと思う。（例えば、写生会の授業を行うなど）			
行政側 ガイドボランティアさんのモチベーションが維持できるよう、講習会の開催方法など工夫したい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林課林務係
------	--------------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年6月4日、8月13日、10月8日、12月3日、平成29年1月14日、3月11日（計6回） 場所：青梅の森 他
2 継続事業	
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成と組織化を図り、適正な森林整備を行う。 また、平成22年度からは杉並区との間で協定を締結し、共同で実施することで講座受講者の拡大を図っている。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	年間6回の講座開催 講座受講者30人（青梅市15人、杉並区15人）×講座回数6回＝180人
(4) 実施内容（実績値等）	講座は2年を1期として実施し、平成28年度は第8期の初年度として実施した。 講座内容は、下刈り、間伐、道づくり、枝打ち、植栽等を行った。
(5) 事業経費（決算額）	森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額821,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数：毎回10人程度
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 講座内容の決定、資材の準備、当日の実技指導 等 行政側： 講座受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 手入れが行届かない山林を何とかしなければならぬと思いボランティア育成講座に参加し、森林作業体験をすることにより実感を高めることができ、また青梅の森の保育保全も進んだ。</p>			
<p>行政側 青梅林業研究グループには、森林施業に対する知識や技術を持ち合わせた者が多く在籍しており、本森林ボランティア育成講座以外にも多くの場で指導を行っているところから、委託先としてふさわしく、受講生からは親切、丁寧な指導には多くの感謝のことばが寄せられている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 森林に対する知識と実技をスキルアップするために、様々な手法を取り入れていく必要があり、今後も引き続きご指導いただきたい。またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。</p>			
<p>行政側 講座修了生を中心としたボランティア団体「森守会」が活動しているが、さらに多くの方に加入していただくことが求められ、継続した活動とするためには、積極的な受講希望者の減少が顕著となったことから、魅力あるカリキュラム等により、受講者層をいかに拡げるかが課題となっている。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室
------	------------	-----	-----

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：毎年度 場所：市立小中学校
1単年度事業、2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容（実績値等）	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費（決算額）	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 参加人数： 市民 約400人（各学校合計）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 学校の依頼にもとづく支援 行政側： 学校への活用奨励

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 学校の都合で日時が限定される。			
行政側 図書室整理などではなくてはならない存在となっている。（登録約400人）			

協働事業評価シート（表）

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2016～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成28年5月14日（土）、15日（日） 場所： 釜の淵公園およびその周辺施設
1単年度事業、2継続事業	
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	来場者・参加者 4,322人
(4) 実施内容（実績値等）	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、おはなし会、竹細工展示、手品、野点による抹茶接待、青梅だがしや楽校による体験イベント、木工クラブ、障がい者団体等による飲食物販売。
(5) 事業経費（決算額）	149,925円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア、障がい者団体 参加人数： 110人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議の事務局として
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 企画運営 行政側： 事務局

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 飲食物の販売が拡充されてお客さんの滞在時間も長くなり良くなっている。体験イベントも充実しており、全体として工夫がされていた。			
行政側 新緑祭全体の準備や片付けにも各団体の実行委員に協力してもらうことで、より協働が進んだ。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 より広く告知できるように周知方法を改善していく必要がある。公募の実行委員なども導入してはどうか。			
行政側 市民も一緒に行う作業の幅も増えてきて協働が進んでいると考える。実行委員会の運営もさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていくことが必要。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：①平成28年9月25日、②平成29年1月28日、③3月5日 場所：①市役所会議室②③青梅市民会館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	家庭教育の充実を図る。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	年三回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。
(4) 実施内容（実績値等）	①遊びで育む子どもの思考力&コミュニケーション力 ②食べて育む～子どものころと食事の意外な関係性～ ③心のSOSサインをキャッチ！～子どものころを健康に保つヒントを学ぼう～
(5) 事業経費（決算額）	②保育業務委託料 11,568円 ③保育業務委託料 14,364円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人 青梅こども未来 参加人数：講演会各回10人前後
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育ての現場の声を反映した講演会とするため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側： 保護者への周知、講師等の情報提供、こどもの保育、当日受付・手伝い 行政側： 周知、講師交渉、当日運営

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日が年度の後半に偏り、日程調整が難しい中、粘り強く交渉を続け、毎回、多様かつ「家庭教育」に相応しい講師を呼ぶことができた。 ・子育て中の父母、祖父母の参加が増えてきた。広報おうめ・ポスターによる告知の効果とみられる。託児（保育）が定着し、毎回、定員を超える希望があった。 ・市民側、行政側、それぞれの特徴と強みを活かした役割分担が出来た。 			
<p>行政側</p> <p>広報等では周知が行き届かない乳幼児の子育て世代に周知することができた。また、託児付きで実施することにより、保護者が参加しやすい状況となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招きたい講師が希望する講師料と、市が設定している講師料がかけ離れ実現できないケースが多かった。講師料の再考は必須と思われる。 ・託児希望が増えている現状を鑑み、市の託児（保育）体制の充実に向け検討の時期にあるのではないか。 ・当日の会場の他行事による予約状況を事前に十分に確認し、駐車場の確保等、あらかじめの対応を万全とする必要がある。 			
<p>行政側</p> <p>当日、他団体のイベントと重なり、駐車場が大変混み合った。あらかじめよく確認をする必要がある。また今年は講演会開催時期が年度の後半に偏ってしまった。講演会の内容にあった開催時期に開催できるよう今後検討したい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年2月26日（日） 場所：釜の淵市民館研修室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育て中の家族が楽しく過ごす場を提供し、乳幼児の知性・感性・社会性を育て人格形成を図るとともに家族の絆を深めるきっかけ作り
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	市民のニーズに合わせた乳幼児向け体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容（実績値等）	参加者78人
(5) 事業経費（決算額）	48,479円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：NPO法人 青梅こども未来 参加人数：25人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：企画、当日の指導 行政側：周知、申込み受付、会場確保

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 社会教育課との協働事業だったので、広報掲載や開催場所との連絡、同日に同会場通路を使う団体との事前確認、備品の借用、参加者の申し込みや受付等がスムーズに出来た。</p>			
<p>行政側 団体の企画・指導により、市民のニーズにあった幼児向けイベントを行うことが出来た。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
<p>市民側 市民のニーズに合ったイベントを行うため、情報交換の場を多く持ち、検討していく事が必要。 同日開催の団体・駐車場利用についての事前把握が今後の課題。 (今回、事前に少し大きな別イベント（カヌー大会）が朝から河原で開催されることを把握していなかったため駐車場の確保が難しい状態になっているのを当日現場に行き知ることとなった。急遽別イベント担当者と駐車場のシェアを相談し駐車場係を配して10数台の確保は出来たが充分とは言えず、駐車に困った参加者もいた。)</p>			
<p>行政側 当日、他団体が事業開催場所にて別のイベントを行っており、駐車場が大変混み合った。当日のイベント開催状況をもっと確認しておくべきだった。今後の課題としたい。</p>			

協働事業評価シート（表）

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	中央図書館管理課
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年5月21日 場所：中央図書館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容（実績値等）	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費（決算額）	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2. 事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「リーダーズあおうめ」 参加人数：11人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側：企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。			
行政側 朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 読みたい希望者、聞きたい希望者が共に増加傾向にあり、実施時間や会場の設営など考慮する必要がある。			
行政側 この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとっても良い事業であるようにしていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	中央図書館管理課
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日 場所：中央図書館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備（整架、配架、資料清掃、資料修理）
(4) 実施内容（実績値等）	整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理と軽易な資料修理を行っている。
(5) 事業経費（決算額）	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：図書館整架ボランティア登録者 参加人数：延べ 336人（登録者28人、年間活動日数233日）
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：図書の整架・清掃、本の修理 行政側：ボランティアに対する場の提供

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。			
行政側			
ボランティアの受け入れを通じて、より利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、業務負担の低減にもつながった。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側			
図書館側とより活発な意見交換をすることにより、より効率的な作業を行えるようにする。また、新旧ボランティアの交流を行い、より情報共有に努め、誰もが自信をもって作業にあたれるようにする。			
行政側			
ボランティア側の疑問点等を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。さらに自立的活動ができるようサポートする。（わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等）			

協働事業評価シート（表）

事業名称	おはなしボランティア	担当課	中央図書館管理課
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日 場所：中央図書館、梅郷図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2 継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標（数値目標等）	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上
(4) 実施内容（実績値等）	おはなし会17回（中央）、12回（今井）、3回（梅郷）、12回（絵本の森）、おはなし学習会（初級）8回、 新緑祭1回、絵本のべんきょう会6回、出張おはなし会3校27クラス、新町スペシャルなおはなし会2回
(5) 事業経費（決算額）	36,000円（おはなし学習会講師報償金 6,000円×6回） 36,000円（絵本のべんきょう会講師報奨金 6,000円×6回）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本の研究会」、個人登録ボランティア 参加人数：延べ 204人
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に（
(6) 役割分担	市民側：おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側：おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 おはなし会を滞りなくできたことが良かった。			
行政側 おはなし会を定期的で開催し、多くの利用者に参加してもらうことで子ども読書活動の推進が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 今後、おはなし会の開催が増えることが見込まれるので、参加できるボランティアを増やすよう努力する。			
行政側 学校への広報活動の効果もあり、出張おはなし会の依頼が増えている。スタッフの育成とボランティアの育成を一層進めるとともに、円滑な情報交換を図っていきたい。			

協働事業評価シート（表）

事業名称	春の午後には図書館へ ～手話で楽しむおはなしと映画～	担当課	中央図書館管理課
------	-------------------------------	-----	----------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間：平成29年3月4日（土） 場所：中央図書館</p>
<p>1単年度事業</p>
<p>(2) 事業の目的 聴覚に障がいのある方が、健常者と共と同じ空間で同じ作品を楽しむことができる場の提供を「青梅の図書館を考える会」と共催で事業を行うことにより、市民活動団体等と図書館とがそれぞれの立場を理解し合い、尊重し合うとともに、それぞれの特性を生かしながら、創意を生かした協働型のまちづくりを促進することを目的とする。</p>
<p>(3) 事業の成果目標（数値目標等） 参加者の確保</p>
<p>(4) 実施内容（実績値等） ・おはなし「注文の多い料理店」（宮沢賢治）（手話通訳付き） ・映画「ブタがいた教室」（字幕付き）の上映</p>
<p>(5) 事業経費（決算額） なし</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 2. 事業共催</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名：青梅の図書館を考える会 参加人数：7人</p>
<p>(3) 協働の提案者 2団体等からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 青梅の図書館を考える会との共催事業は、以前より講演会等を共催で行ってきた経緯があるが、障がい者も楽しめる企画内容が図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に（</p>
<p>(6) 役割分担 市民側：企画立案、広報、朗読および手話の実施、映画会の開催運営 行政側：企画立案、広報、会場提供、映画会の開催運営</p>

協働事業評価シート（裏）

1 できなかつた 2 あまりできなかつた 3 ほぼできた 4 できた 5 非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 広報活動を市民側も担うことで外部に向けた広報が行われ、さまざまな場面で市民に認知してもらった効果があった。〈例〉 青梅線の駅(4ヶ所)構内、 近隣の市町村も含めて書店でのチラシ掲示、等。			
行政側 今回のイベント実施により、来場者に図書館への関心を高めていただくとともに図書館の利用促進が図ることができた。また、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など（できるだけ具体的に記入してください）			
市民側 今回、映画会に関する市民側の意見は、アンケート回答形式による記入に限定された。映画会終了後に図書館職員と市民が参加する懇談会形式は、市民の一方的な感想や希望だけでなく、それに対する図書館職員の感想や意見を表現する場でもあり、両者が意見を共有することにより、今後の図書館運営にも有益と思われる。その他では若い世代の参加が少なかつたため今後はPRの方法に工夫が必要である。			
行政側 当該団体との協働事業は隔年で実施されており、事業内容についても講演会、映画会等、図書館の設置目的の推進に則したものとなっている。今後においても市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとっても良い事業であるようにしていきたい。			

市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	1 2	ようこそおそき事業	おそきの学校と地域を 考える会	企画政策課、農 林課、都市計画 課、商工観光 課、住宅課、市 民活動推進課
2	自由	障がい者スポーツ普及推進事 業	障がい者スポーツクラ ブH I M A W A R I	スポーツ推進 課・障がい者福 祉課
3	自由	鎌倉時代から戦国時代にか けて青梅を中心に活躍した「武 州青梅 三田弾正手作り甲冑 隊」を活かした地域おこし	武州青梅 三田弾正手 作り甲冑隊	文化課・商工観 光課
4	4	森林所有者・地域住民・事業 者・若者を結ぶ勉強会の実施 事業	特定非営利活動法人 青梅林業研究グループ	農林課
5	自由	身体活動を習慣化させる介護 予防体操教室	特定非営利活動法人健 康体操指導ワーカーズ	高齢介護課

【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

【行政テーマ提案】

市が設定した次のテーマについて、事業を提案するもの

- 1 若者の出会いの場の設定事業
- 2 女性が活躍できる環境づくり
- 3 青梅ならではのオリンピック・パラリンピック推進事業
- 4 山林資源活性化に向けた林業就業者創出のしくみづくり支援事業

事業名 ようこそおそき事業



おそき DE プチ田舎暮らし体験 10月16日 稲刈り体験

1 実施団体 おそきの学校と地域を考える会

2 担当課 3 実施時期 4 参加者 5 実施場所

1) おそき DE 恋活（れんかつ）プロジェクト ⇒ 担当課 企画政策課

①8月7日 大人の恋活（ブルーベリー狩り&交流会）

・参加者 男女とも6名、スタッフ6名 計18名

・実施場所 市川ゴルフ所有農園にてブルーベリー狩り

小曾木5丁目の「カフェコンブリオ」で交流会



② 11月12日 うどん作り DE 恋活

- ・参加者 男女とも4名、スタッフ14名 計22名
- ・実施場所 富岡の井上さん宅でうどん打ち、天ぷらとうどん食事
乙黒耕地の横手さん畑でさつまいも掘り
小曾木3丁目の「こころ」で交流会



2) 女性活躍の市内への情報発信 ⇒ 担当課 市民活動推進課

① 12月7日 稲刈り体験での活躍状況発信（農林課との協働）

- ・「たまの魅力発信プロジェクトたま発！」たま発！ギャラリーにて
- ・参加者 女性9名、男性6名 計15名
- ・実施場所 富岡の井上さん宅



② 3月14日 青梅市自治会連合会支会長会議にて女性活躍状況発信

- ・参加者 女性1名、男性1名 計2名
- ・実施場所 青梅市役所内会議室

3) おそき DE プチ田舎暮らし体験 ⇒ 担当課 農林課、都市計画課

① 6月12日 田植え体験

- ・参加者 参加者合計142名（一般116名、スタッフ26名）
市内25組、市外18組 計43組

市外組数

- 【多摩8組】羽村2組、福生1、昭島1、立川1、日野1、国分寺1、清瀬1

- 【都区内7組】大田1、世田谷1、中野4、板橋1

- 【埼玉県3組】さいたま市3

- ・実施場所 青梅市富岡（乙黒耕地）



②7月31日 田んぼの手入れ体験

- 参加者：参加者合計44名（一般34名、スタッフ参加者10名）
12組（市内9組、市外3組国分寺市3）
- 実施場所 青梅市富岡（乙黒耕地）



③10月16日 稲刈り体験

- 参加者：参加者合計116名（一般95名、スタッフ21名）
合計35組、市内13組、市外22組。
- 実施場所 青梅市富岡（乙黒耕地）



- 4) 簡易手づくりハイキングマップの作成 ⇒ 担当課 商工観光課
- ・考える会のホームページ（小曾木地区紹介サイト）に飯能駅から七国峠を通過して岩蔵温泉までの行程の写真、地図などを掲載し、スマートフォンで確認しながらハイキングを行える形とした。



- ・ <http://www.osoki-ome-tokyo.jp/hiking-hannou-iwakura/>

- 5) 空家バンク充実事業 ⇒ 担当課 住宅課
- ・ 1月17日「奥多摩町の若者定住対策についてのワークショップ」
 - ・ 奥多摩町の若者定住対策等について、奥多摩町役場の担当者から状況を聞くワークショップを実施した。
 - ・ 参加者：20名
 - ・ 実施場所 小曾木市民センター



- 6) 地域住民アンケート ⇒ 担当課 市民活動推進課
- ・ 小曾木地区住民の意識を調査するため、「小曾木地区総合意識アンケート」を小曾木地区全員（中学生以上）を対象に実施した。
 - ・ 印刷冊数 5,000部（A3 両面×2枚、2つ折り、印刷枚数換算2万枚）
 - ・ 内容検討：考える会、自治会第6支会、青梅市
 - ・ 小曾木市民センター印刷機にて印刷、第6中紙折り機にて折り作業
 - ・ 配布回収協力：自治会第6支会（12月配布、1月回収）
 - ・ 集計：考える会会員
 - ・ アンケート対象者 3,192名（推計）、回収数 1,506、回収率 47.2%
 - ・ まとめ作成、印刷：考える会
 - ・ 報告先：自治会第6支会（自治会長会議にて）
青梅市自治会連合会（支会長会議にて）
地域住民（地域回覧にて）
青梅市（報告書配布、市長への報告は今後検討中）

6 事業の目的

- 1) 青梅市内でも人口減少の進行が早期に進んでいる小曾木地区で、その進行に歯止めをかけるための施策を実施し、子や孫の世代が住み続けたいと思える小曾木地区、青梅市へ近づけるよう行動する。
- 2) 地域の住む幸福度が実感しやすくし定住を促進、地域外の方々へ地域の良さをアピールし、実際に「来ていただく」「体験する」ことにより移住を促進する。
- 3) 「おそき空家バンク」から「青梅市空家バンク」へ、小曾木地区での先行施策の市内展開が図られるが、空家対策が難しい中、1件ずつ地道に一步一步対応を進め移住できる場所の確保へつなげる。



◎青梅市組織の複数の課との連携、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連携を推進し、先行実施した結果の市内展開を図り青梅市全域の地域課題解決への足掛かりとしていただく。

7 役割分担

- 1) 団体の役割
 - ・事業の実施
 - ・市内他地域からの情報提供依頼への対応
- 2) 担当課の役割
 - ・事業実施へ向けての情報交換
 - ・事業実施へ向けての考える会への情報提供
 - ・市内（広報おうめ）、市外へ向けての情報発信（プレスリリース）

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- 1) おそき DE 恋活（れんかつ）プロジェクト
 - ・出会いの場が2回設定でき、その後の交際につながった。
 - ・小曾木地区の場所と人の良さをアピールできた。
 - ・ブルーベリー狩り、さつまいも掘りなど体験型で特徴を出せた。
 - ・20～30代バージョンにプラスし、40代バージョンが設定できた。
 - ・参加者には高評価をいただけた。
- 2) 女性活躍の市内への情報発信
 - ・女性が活躍できる環境で、活躍している様子を発信できた。
 - ・小曾木地区は女性の活発な活動が支えていることを情報展開できた。
 - ・活躍されている女性自身の活躍の場がさらに広がっている。
- 3) おそき DE プチ田舎暮らし体験
 - ・田植え、田んぼの手入れ、稲刈りまでを一貫として実施できた。
 - ・農住調和を意識し地域外の方々への地域アピールができた。
- 4) 簡易手づくりハイキングマップの作成
 - ・飯能駅から七国峠、岩蔵温泉へのハイキングマップを作成した。
 - ・東部活性化を意識し埼玉方面から小曾木地区へ足を運ぶことに意識をすることに意識してもらうことができた。
- 5) 空家バンク充実事業
 - ・空家バンクの運用を充実させることには直接はつながらなかったが、奥多摩地区での充実した活動状況を知り、今後への足掛かりとなった。

6) 地域住民アンケート

- ・小曾木地区住民全員へのアンケートとしたことにより、地域課題について住民が意識する気持ちができる。
- ・自治会に協力いただけたことで、多数の対象者ながら約半数の方から意見を回収することができ、協力的な地域であることがわかった。
- ・地域住民にとっての不満は、交通が不便な面と買い物が不便な面に集中している状況がわかった。
- ・地域課題を自分たちの手で解決しようとする意識はまだまだかなり低い状況にあることがわかった。
- ・今後の小曾木地区が進むべき方向性がわかりやすくなった。

9 目標達成

事業の目標：

- ・小曾木地区の空家の空家バンク登録3件
- ・小曾木地区への移住へ向けた空家問い合わせ10件
- ・イベントの小曾木外からの視察目的来場者10名

目標の達成具合：

- ・小曾木地区の空家の空家バンク登録1件
- ・小曾木地区への移住へ向けた空家問い合わせ12件
- ・イベントの小曾木外からの視察目的来場者3名

◎事前に目標には設定しなかったが、地域住民の意識がアンケートによって思った以上にわかるとともに、地域住民自身が問題意識を持つきっかけになった。

10 事業の実施内容

1) おそき DE 恋活（れんかつ）プロジェクト

- ・「出会いの場の設定」
- ・小曾木地区を舞台に信頼感の高い出会いの場を女性中心に企画し創出
- ・さつまいも植え、手入れ、収穫までを一貫とした事業
- ・20～30代バージョンにプラスし、40代バージョンを設定実施

2) 女性活躍の市内への情報発信

- ・「女性が活躍できる環境づくり」
- ・考える会の女性の活発な活動の他地域への情報展開

3) おそき DE プチ田舎暮らし体験

- ・田植え、田んぼの手入れ、稲刈りまでを一貫とした事業
- ・農住調和を意識し地域外の方々への地域アピールに主眼をおいて行う

4) 簡易手づくりハイキングマップの作成

- ・飯能駅、青梅駅から岩蔵温泉へのハイキングマップの作成
- ・東部活性化を意識し地域外から小曾木地区へ足を運びやすくする事業

5) 空家バンク充実事業

- ・空家バンクの運用を充実させ、小曾木地区への移住を推進するとともに青梅市全体への展開を促進する事業

6) 地域住民アンケート

- ・小曾木地区住民への地域創生に関するアンケート&他地域への情報展開

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	考える会 推進課	市民活動	考える会 政策課	企画	考える会 住宅課	住宅課	考える会	農林課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4	4	4	3	3	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4	3	3	3	3	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4	4	4	3	4	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4	4	4	4	4	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4	4	4	4	4	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4	4	4	4	4	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	4	4	4	3	4	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3	3	3	3	3	3	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4	4	4	4	4	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3	3	3	3	3	3	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 1) 地域住民の方々、特に高齢な方々は様々な不安を抱えた中で生活されていることを実感した。ただ、自分が動いて何とかしようとするためには、活力を持って動くための動力源が必要であり、現状では、行政に依存する雰囲気強いことがわかった。右肩上がりで日本経済が大きくなっていった時代から、経済原理によって様々な部分が縮小場面へ転換し、社会構造の大きな変化になってすでに表れていて、行政の財源も縮小していることをもっと住民が意識できるようにしなければとも感じた。
- 2) 地域の課題はわかりやすくなったので、改善へ向けて未来の青写真を作成して住民への「見える化」を進めながら、次年度以降で取り組みたい。

13 その他

- ・特になし

以上

事業報告書

事業名 障がい者スポーツ推進事業

- ・ボッチャ普及講習会
- ・ボッチャチャレンジゲーム



1 実施団体

障がい者スポーツクラブ HIMAWARI

2 担当課

スポーツ推進課・障がい者福祉課

3 実施時期

平成28年12月23日（金）

4 参加者

講習会・チャレンジゲーム参加者

15名（身体障害者 2名 知的障害者2名）

講習会のみ 7名

チャレンジゲームのみ 4名

（知的障害者1名 身体障害者1名 内部障害者1名）

5 実施場所

青梅市総合体育館 第2ホール

6 事業の目的

障害がある人とない人が一緒にルールを覚え、練習を行い、また、その練習の成果を発揮できる場所を一緒に作っていくことにより、障がい者・高齢者等の体力維持、やりがいにつなげていくとともに障がい者スポーツの普及を図っていくことを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割

- A ボッチャ普及講習会およびボッチャ地域交流大会の計画・実施
- B シッティングバレーボール国内審判員養成講習会の計画・実施
- C 関係団体との連絡調整
- D マスコミへの広報依頼

・担当課の役割

- A 情報提供
- B 広報周知
- C 会場確保
- D 事業実施への協力
- E その他必要な事項

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

ボッチャのルール・練習方法を勉強して、参加した人全員がゲーム進行出来るようになった。講習会後も何度か練習し、多摩障がい者スポーツセンターで開催されたボッチャ大会に参加できるまでになった。

その後も 高齢者にボッチャを体験してみたいと問い合わせがあった。

9 目標達成

事業の目標：

障害がある者とない者が一緒にルールに則ってボッチャを学び、試合形式練習会で本来のボッチャの楽しさを実感してもらうことを目的とする。

目標の達成具合：

講習会に参加した方への達成具合は 70%

ボッチャ普及に関しては 10%

10 事業の実施内容

午前は 公益社団法人 東京都障がい者スポーツ協会に講師を依頼し、コート設営から練習方法、ゲーム進行まで講習指定いただき、ボッチャを楽しく始められる方法を学びました。

午後は 2人 10チーム を作り 4エンド時間制限なしの内容で、時間一杯、ゲームを行う。

講習会を受講した方から順番に審判を行っていき、最後は全員審判できるようになった。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	1	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

☆参加した方々には成功した事業だった。

☆実施日の第1ホールではビーチボールバレーの大会が行われていたようだが、ポッチャをしているお知らせが上手く出来なかったからか、見学に来る方もいなかった。

☆リオパラリンピックで銀メダルになったから知名度もあがったのではと思い込んでいた。

- ・障害がなくても一緒にできる
- ・見た目は地味だが、実際に体験してみると意外に面白く、ハマる種目という楽しいスポーツをもっと押していきたいと思います。

これを機に 青梅市でポッチャ地域大会が出来るように

普及に力を入れていきたい。

そこから 2020年東京大会を目標にする選手をみつきたい。

13 その他

ご協力いただいた スポーツ推進課・市民活動推進課のみなさん
ありがとうございました。

事業報告書

事業名 障がい者スポーツ推進事業

・シッティングバレーボール

B級公認審判員資格取得講習会



1 実施団体

障がい者スポーツクラブ HIMAWARI

2 担当課

スポーツ推進課・障がい者福祉課

3 実施時期

平成29年 3月11日(土)・12日(日)

4 参加者

22名(内 HIMAWARI から5名)

5 実施場所

青梅市今井市民センター 会議室

6 事業の目的

障害がある人となない人が一緒にルールを覚え、練習を行い、また、その練習の成果を発揮できる場所を一緒に作っていくことにより、障がい者・高齢者等の体力維持、やりがいにつなげていくとともに障がい者スポーツの普及を図っていくことを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割

- A ボッチャ普及講習会およびボッチャ地域交流大会の計画・実施
- B シットイングバレーボール国内審判員養成講習会の計画・実施
- C 関係団体との連絡調整
- D マスコミへの広報依頼

・担当課の役割

- A 情報提供
- B 広報周知
- C 会場確保
- D 事業実施への協力
- E その他必要な事項

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

講習会では2020年に行われるパラリンピック東京大会で審判員として活動できる内容にさせていただきました。

講習会内で行う審判実技練習で実際に全日本男女チームが体育館でシットイングバレーボールを実施。

本当のシットイングバレーボールを地域の方や興味のある方に紹介できた。

9 目標達成

事業の目標：

講習会受講者がシットイングバレーボールの審判（ゲーム進行）出来るようになる。

目標の達成具合：

講習会に参加した方への達成具合は60%

シットイングバレーボール普及に関しては 10%

10 事業の実施内容

講師に 一般社団法人 日本パラバレーボール協会に講師を依頼し、2020年8月には東京パラリンピックにて記録、ラインジャッジなど審判員として活動出来るB級公認審判員資格取得のための講習会を実施。

審判実技練習ゲームに現在活躍されているシッティングバレーボール全日本男女チームが2つに分かれて、ゲームをして下さった。本格的なシッティングバレーボールでの実施講習でした。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	1	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

障がい者スポーツも シッティングバレーボールも なかなか普及していない中で、突破口がなかったことから、この事業を応募しました。最初は市民を集めて審判実施ゲームをするようかと ご協力をお願いに回っていたところ、全日本男女チームが実施してくれることになり、審判講習会が一層確かなものに出来ました。

近隣の市民の皆さんや、興味を持っていらした方に本格的なシッティングバレーボー

ルを観戦していただけたのも良かったと思っています。

これを無駄にならないように、特に18歳の3人が2020年幕張で実施されるパラリンピック大会で審判員として活動出来るように育てていきたいです。

改善点というか今井市民センターは最寄り駅から遠い、市内に合宿に適した宿舎がない、といった大きな問題がありますが、

ポッチャ同様、知名度を上げる広告・シッティングバレーボール人口を増やし地域交流大会実施を目指します。

13 その他

日本パラバレーボール協会、各都道府県の障がい者スポーツ協会から講習会の参加者を募っていただきました。北は青森、南は鹿児島からの受講生もいらっしゃいました。2020年に向けて障がい者スポーツが益々盛んになってくると思われるので、流されないようにしていきたい。

事業報告書

事業名

鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した
「武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし



- ① 実施団体 武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊
- ② 担当課 教育部文化課(郷土博物館)
商工観光課
- ③ 実施時期 平成28年 7月～平成29年 3月
- ④ 参加者 15名
- ⑤ 実施場所 永山ふれあいセンター
- ⑥ 事業の目的 青梅市の市名の由来である平将門の子孫と称する三田弾正を活かした地域おこしに向け、また観梅市民まつりに参加するための手作り甲冑教室を開催するとともに、郷土の歴史と文化を学び合うことを通じて郷土を愛する心を育てる。
- ⑦ 役割分担
 - ・ 団体の役割 地域資源「武州青梅 三田弾正甲冑隊」を新たな観光資源にする
青梅市の歴史に関する「武州青梅 三田弾正」が地域資源であることを広く市民に周知でき、新たな観光資源として内外にアピールすることができます。
 - ・ 担当課の役割 特色ある協働事業を推進し、団体、地域から信頼されるよう協力して、事業が積極的に取り組めるようサポートを行う。
参加者募集の広報活動を協力
完成した甲冑の今後の活用方法の協力

⑧ 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

これから三田氏ゆかりの地域との交流を進めながら広域的に「三田弾正甲冑隊」を市内外に宣伝して、青梅の地域活性化や観光の振興につながると思います。

⑨ 目標達成

事業の目標： まちの歴史を知ることによって郷土を愛する市民をふやす
 手作り甲冑教室や郷土史講座などを通じて青梅市を再発見して
 郷土を愛する心をもった市民が増えるきっかけづくりとします。

目標の達成具合： 第一回（7/17）、第二回（12/4）の郷土史講演会では延べ120名を超える市民が参加し、郷土を愛する市民が増えたと思います。

⑩ 事業の実施内容

- 第一回郷土史講演会 平成28年7/17（日）参加者 約 50名
- 第二回郷土史講演会 平成28年12/4（日）参加者 約 70名
- 手作り甲冑教室（永山ふれあいセンター）参加者延べ 約 340名
平成28年7月～平成29年3月 のべ21回開催
- 地域イベントへの参加
産業観光まつり11/5（土）～6（日）甲冑教室のパネル展示と試着体験
観梅市民まつり 平成29年3/12（日）甲冑の武者行列によるPR

⑪ 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
(4) 協働相手は適切だった	3	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑なされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	3
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

⑫ まとめ(今後の課題や改善点など)

現状・課題・目標達成: 梅の伐採により、青梅を訪ねる観光客の認知度は残念ながら低い状況にあるが、三田弾正甲冑隊を旗印にした地域おこしの活動によって、他の地域にも青梅市をアピールすることができ、市民にも「武州青梅 三田弾正甲冑隊」の認知がすこしずつ広がってきた実感がある。

事業内容: 事業としては少しずつ、広がってきましたが甲冑教室を月2回プラスα実施していたので運営スタッフにとってこの9ヶ月、負担が大きかった、今後はスタッフをもっと増やすことが必要だった。

協働という事業形態: 行政ではできない自由な発想での地域おこしができた自負があり、郷土博物館との協働により甲冑教室に対する信頼度が増し、特に広報においてはとても効果的だったと思います。情報交換や話し合いの場はあまりもてなかったのも、今後はもっと連携を密にすればより効果的な活動ができると思います。

⑬ その他

実施能力: 甲冑教室や他の地域交流等を通じて、一緒に活動してくれる仲間の輪が広がったので、さらに幅広い活動ができるようになったと思います。

事業の実施で学んだこと: スタッフ同士の連携や細かな打ち合わせを継続していくことの重要性を学んだ
青梅には潜在的に地域おこしに参加したいと思っている人びとがたくさんいるということ学んだ

新たに気づいた課題: 運営スタッフの増員と育成の必要性また市民参加の重要性をあらためて痛感している

最期に: 事業は3月に終わりましたが、現在、完成した甲冑5領では、活動範囲が限られ効果的な地域おこしには無理があります。次年度には協働事業の継続などをお願いします。

事業報告書

事業名 「森林所有者・地域住民・事業者・若者を結ぶ
勉強会の実施事業」



- 1 実施団体 NPO法人青梅林業研究グループ
- 2 担当課 農林課
- 3 実施時期 平成28年6月4日～平成29年2月28日
- 4 参加者 森林所有者・地域住民・事業者・若者
- 5 実施場所 青梅市役所
(3階議会棟大会議室・2階204～206会議室)
- 6 事業の目的 市内63%の森林資源の持続的利用と放置林の活用
- 7 役割分担
 - ・団体の役割 講師手配、森林所有者・地域住民・若者への働きかけ
 - ・担当課の役割 情報提供、活動の場の提供（屋内外含む）、広報はじめ、森林所有者・地域住民・事業者・若者への働きかけ

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市内森林において、放置林が減少し、林業就業者の増加、またそれに伴う地場産業への波及を期待

9 目標達成

事業の目標： ①青梅市内に若手林業就業希望者が3名集まる
②放置山林を提供してくれる森林所有者が3名集まる
③林業就業のためのフィールド確保

目標の達成具合：①若手林業就業希望者は、3名以上集まる
②山林をを提供してくれる森林所有者が2名集まる
③林業就業のためのフィールド確保については、
提供予定森林所有者と調整中。

10 事業の実施内容

- 6/8以降より農林課と青梅りんけんが中心となって、事業実施に向け検討会や中心人物の洗い出し。
- 本事業に先立ち、事前の6/27青梅市内の森林所有者、地域住民、事業者、若者の有識者を交えた、35人規模の勉強会を講師招き実施。
- 10/30本事業である、勉強会を『自伐型林業フォーラム in 青梅』と題して、青梅市内外の森林所有者、地域住民、事業者、若者を中心に100名を募集。講師、スタッフ含め総勢130名以上の参加者を迎え、パネルトーク質疑応答の時間では、市長はじめ多くの前向きで活発な意見が伺えた。
- 10/30以降11/29、12/4、12/27、1/13、2/9、2/26と『自伐型林業フォーラム in 青梅』に参加された方の中で、青梅市内の意欲ある市民中心で定期的に集まり、林業就業に結び付けられるフィールドの確保に向け、意見交換を継続している。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・青梅市内住民より、市外住民の方からの林業体験等、実践できる山林に関心を強く持たれている。一方で、青梅市内の森林所有者側への理解をもう少し深め進める必要もあると感じる。
- ・区域外住民や若者、これから始めたい人に対する森林・林業に対する心構えや技術習得の場の提供と、森林所有者や地域住民に対しての信頼性の構築が必要不可欠と感じる。

13 その他

事業実施をした上で気付いた課題解決のためにも会議室で考えるのではなく、実践できる現場を確保し、間伐や作業道づくりなど、木材の搬出研修を体験しながら、地域産材を使う仕組みが構築できたら、理解者が増え早期解決が図れるのではないかと考える。

経済的にも利便的にも実行しやすい場所、市街地に近い市有林（青梅市森林面積の約 2%）などでモデルが出来れば、全体の多くを占める私有林（青梅市森林面積の約 97%）への波及効果も必ず期待できると感じる。

青梅市は、東京の森の玄関のような立地条件であるため、もっと活かすことを念頭に、市有林のみならず、本事業を通し、繋がった参加者の所有される私有林での展開も視野に入れ今後も地道に活動を継続していく。

事業報告書

事業名 「身体活動を習慣化させる介護予防体操教室」



- 1 実施団体 特定非営利活動法人 健康体操指導ワーカーズ
- 2 担当課 健康福祉部高齢介護課
- 3 実施時期 8月体験会2回・9月～2月の6ヶ月間(24回)
- 4 参加者 登録30名・延べ人数526名・1回平均23.4名出席
出席率78%・皆勤1名(1回欠席者7名・2ヶ月間欠席1名)
60歳代10名・70歳代16名・80歳代4名
女性28名・男性2名
- 5 実施場所 今井市民センター(11回)・浮島会館(13回)
- 6 事業の目的 介護予防体操教室を開催し、身体活動を生活の中に習慣化させ介護予防につなげるとともに、地域のグループ活動を通じて市民の自主性を引き出し、地域の担い手を育成する。
- 7 役割分担
 - ・団体の役割 認知症を含めた介護予防に効果のある体操指導と支援組織づくり・他団体への協力要請・参加者募集・参加費徴収・健康チェック・体力測定・データづくり・開講式と修了式の開催・修了証の発行・終了後の自主クラブづくり
 - ・担当課の役割 情報提供・広報周知・参加申し込み受付・会場確保
事業実施の協力
- 8 事業の効果(どのような地域課題が解決できたか)
健康寿命を延ばす身体活動を習慣化させるためには身近に体操をする場と

参加すれば効果のある楽しい体操が必要なことが理解され、2つの自主クラブを設立することに繋がりました。体力測定で運動効果が確認出来、友人や知人を誘い、代表や会計、会場取りやチラシ配りなどの自主性から他者を考える地域の担い手となる第一歩が踏み出されました。

9 目標達成

事業の目標：2つの自主クラブ設立で目標通り5つの自主クラブになり自主的な呼び掛けで2クラブ44名を集めることができた。

目標の達成具合：浮島会館や藤橋の杣保葛会館を提案している方も多く、今井市民センター以外の展開も考えられ100%以上の達成。

10 事業の実施内容

- ① 認知症を含む介護予防の有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチ・日常動作訓練の総合体操である「自立生活体操」を体験含め26回指導
浮島会館は和室のため椅子を固定した体操プログラムに変更し効果を維持
- ② 看護師による血圧測定と健康相談及び健康講話
- ③ 習慣化のため毎回の記録カードや年末年始に宿題カード発行
- ④ 体力測定3回実施(初回・3ヶ月・6ヶ月)体操効果を確認
- ⑤ アンケート実施(身心の変化・自主クラブへ移行・自主性・地域の担い手)
- ⑥ 開講式・修了式(税金で実施されたことを理解し、市民に返すことを考える)

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

今後の課題： 歩いて行かれる所に健康寿命を延ばす体操ができる所があれば参加したいという人がおおぜいいること、また国分寺市と比較して年齢が若いにもかかわらず車を使う生活が多いせいか循環器系の病気を患う人が多いことがわかりました。介護予防には運動を習慣化させるように歩いて行かれる所に体操する場があるという地域密着型の事業展開が必要であり、自主性が引き出されるまで市民に寄り添った支援が重要と考えます。

改善点： 市内の真ん中の大門地域や市の端の梅郷・小曾木地域などであと2回程、同じ協働事業を行い、10クラブ以上の自主クラブが設立されれば青梅市全体で健康寿命をのばす介護予防体操の「自立生活体操」が認知され、市民の力で介護予防の体操が展開できます。その効果は同時に指導者も増やすことになり「災害時にエコノミークラス症候群にならない運動支援」や「介護予防・日常生活支援総合事業」の「通所型サービスB」事業の展開など、地域の担い手を増やすことが出来ます。(国分寺では3年間同じ協働事業を提案できる)

支援組織「おげんき会」の組織づくりは国分寺市で行った民生委員、老人会、自治会の方に集まっていただき、おげんき会を発足させて参加者を募ってきた展開方法は開始までの時間がなく理解されませんでした。体操参加者の年齢が若いこともあり、参加者の中から支援する方を育成し、包括支援センターの協力を得ながら行う青梅市方式で今後の支援組織をつくる方向に変換します。

13 その他

担当課とは常に相談しながらスムーズに進めることができた。特に協働事業実施中に自主クラブ設立の合意が取れたことにより、市の広報に「自立生活体操クラブ・今井」の参加者募集の呼び掛けが掲載され、参加者の皆さんにとって大きな支えとなりました。

市民サークルの会員募集は掲載条件に記載はないが、独立した「自主クラブ」であっても運動種目が同じ名称であると5団体で年2回一緒にしか掲載出来ない仕組みになっています。独立した5団体の名称と連絡先が違う募集を同時にしか出来ないことに疑問を感じます。このことは医療費、介護費削減の介護予防体操を行う団体を増やし、地域の担い手を増やす活動の妨げとなるため改善を希望します。

添付資料：支払証明(指導・事務) 体力測定(2) アンケート(2)

